



FACT

2020年版



人生双六 データ資料

神奈川大学

キャリア・デザイン

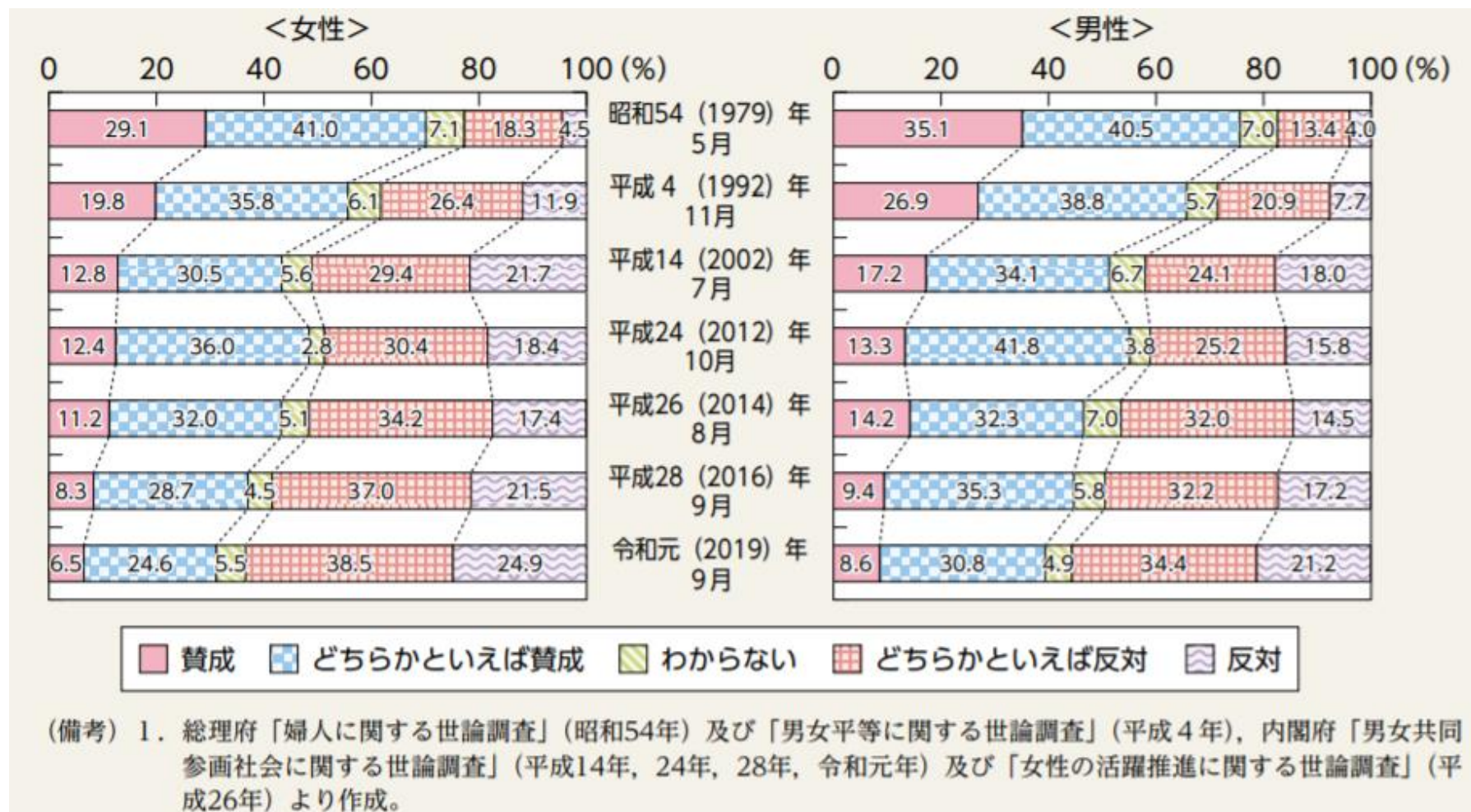
ワーク&ライフデザイン教育プログラム



FACT

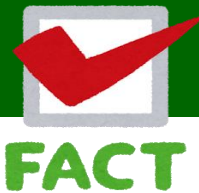
0. 性別役割意識

◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という意識の変化



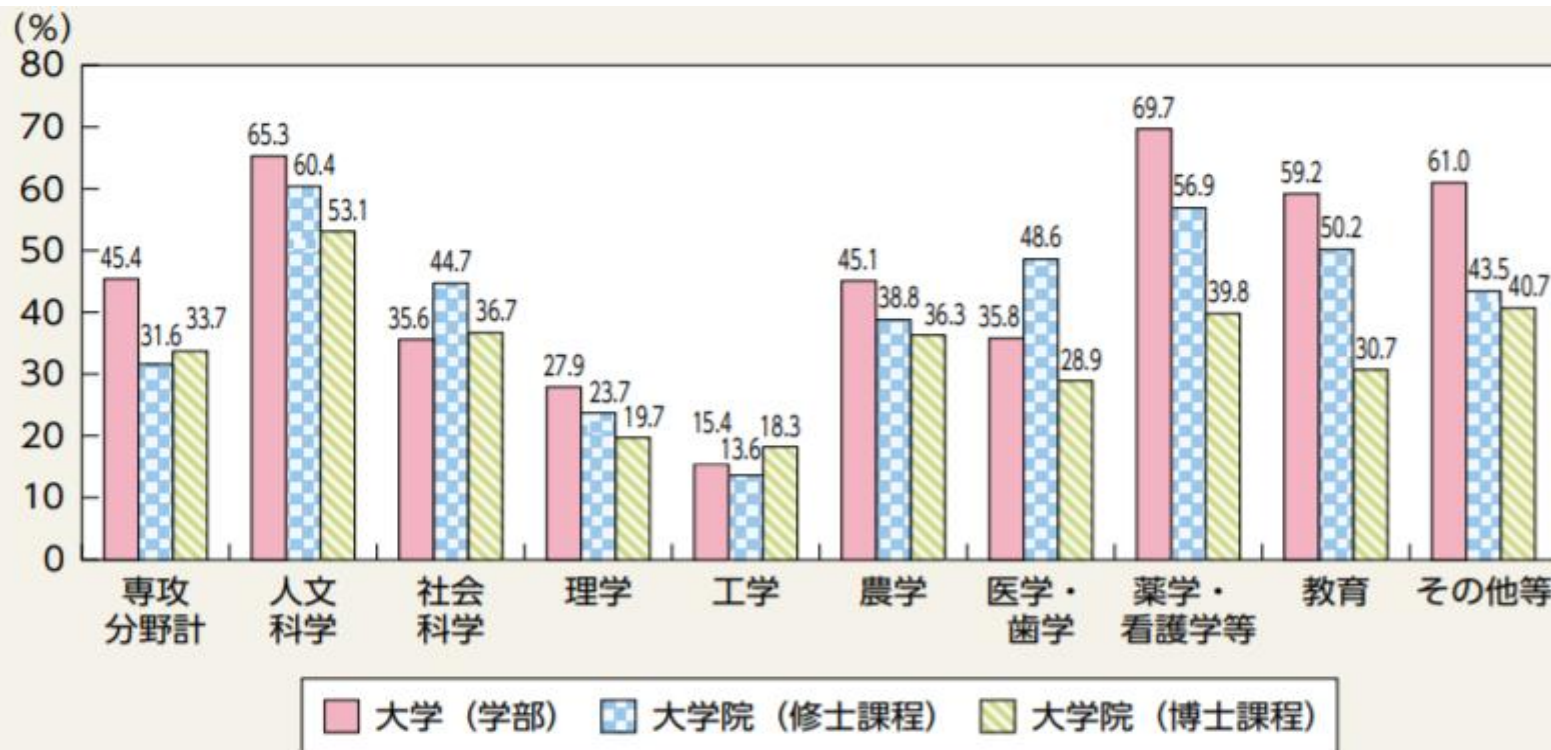
出所 : 内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」

性別役割分担意識に賛成する人は男女とも減少、賛成<反対



1. 進路選択

◆ 大学・大学院における女子学生割合



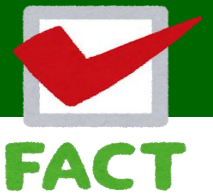
（備考） 1. 文部科学省「学校基本統計」（令和元年度）より作成。

2. その他等は、大学（学部）及び大学院（修士課程）は、「商船」、「家政」、「芸術」及び「その他」の合計。大学院（博士課程）は、商船の学生がいないため、「家政」、「芸術」及び「その他」の合計。

出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」

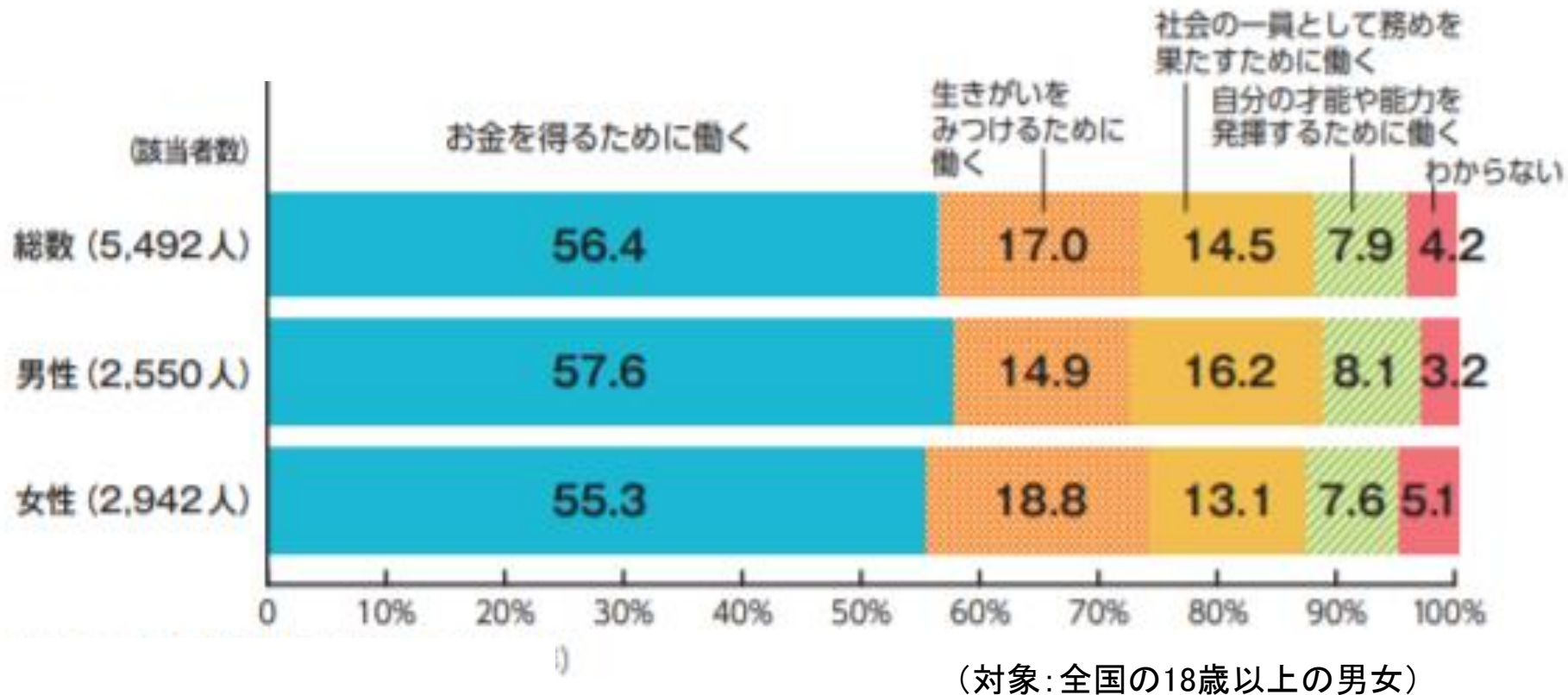


分野による偏りが大きい、理学・工学を選ぶ女子はまだ少数



2. 就職活動

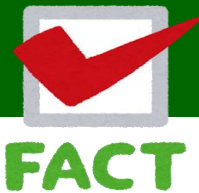
◆ 働く目的



出所：内閣府「国民生活に関する世論調査」2019年、神奈川県「mirai book」2020年

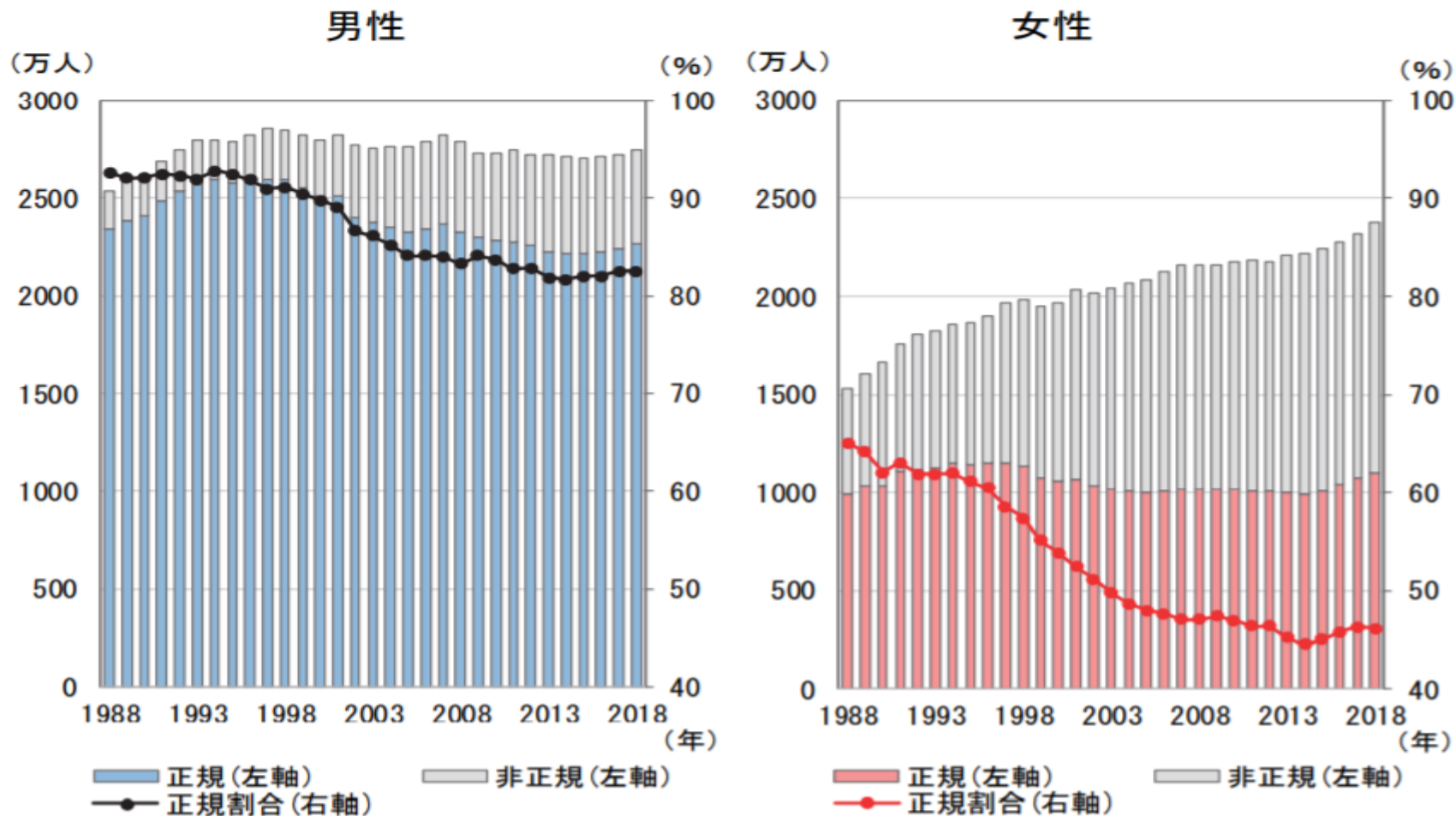


男女とも「お金を得るために働く」割合が最も高い。男性は「社会の一員としての務め」、女性は「生きがい」が続く



3-1. 働き方

◆ 正規、非正規雇用者数の推移



出所：総務省「労働力調査特別調査」、前田泰伸「働く女性の現状と課題」経済のプリズム 181, 2019.

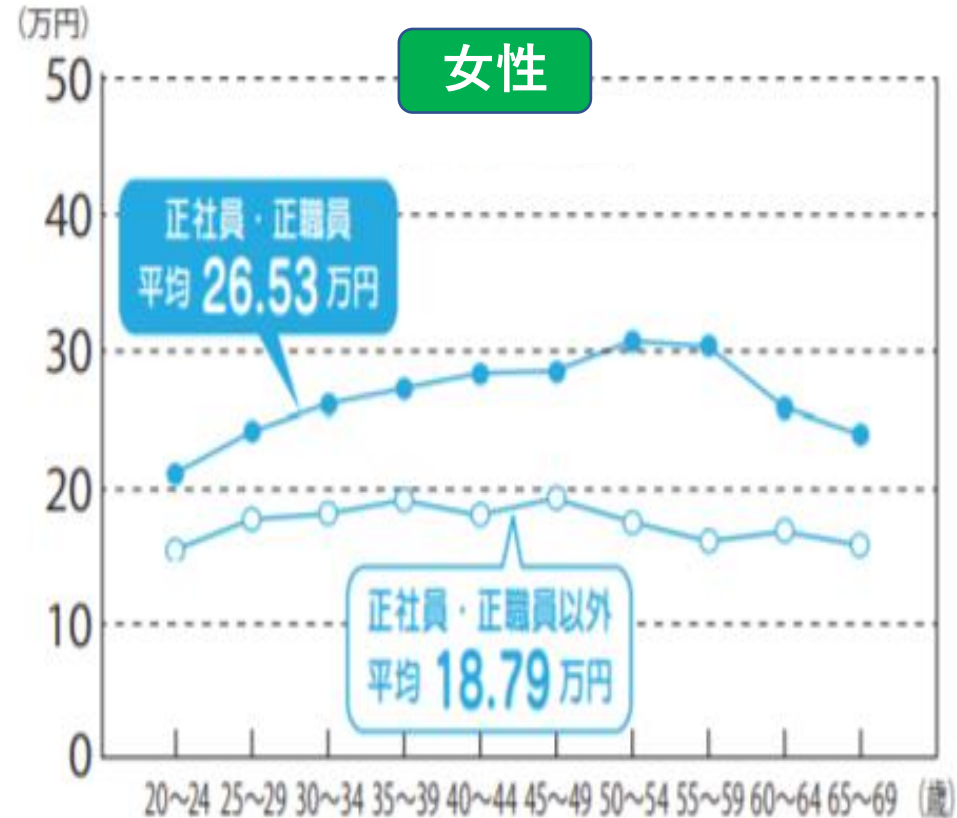
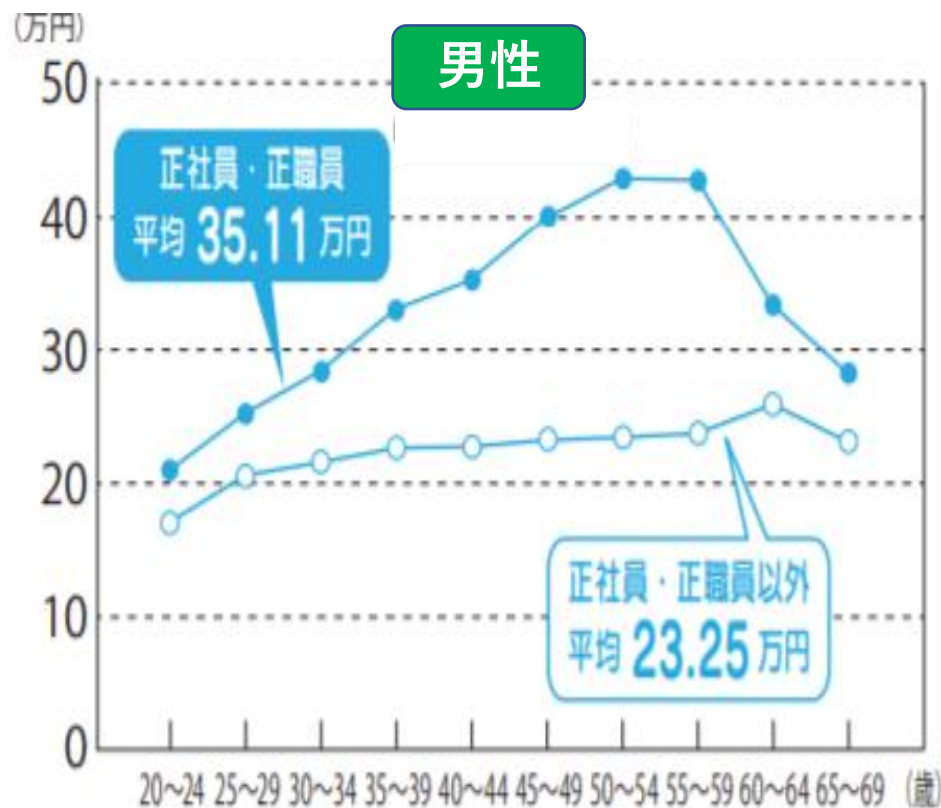
男女とも非正規雇用者が大幅増加、女性は非正規割合が50%超



3-2. 働き方

FACT

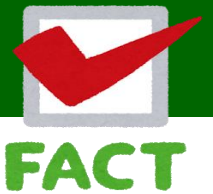
◆ 働き方と性別でみた収入(月収)



出所：厚生労働省「賃金構造基本調査」2018年、神奈川県「meet me book」2020年

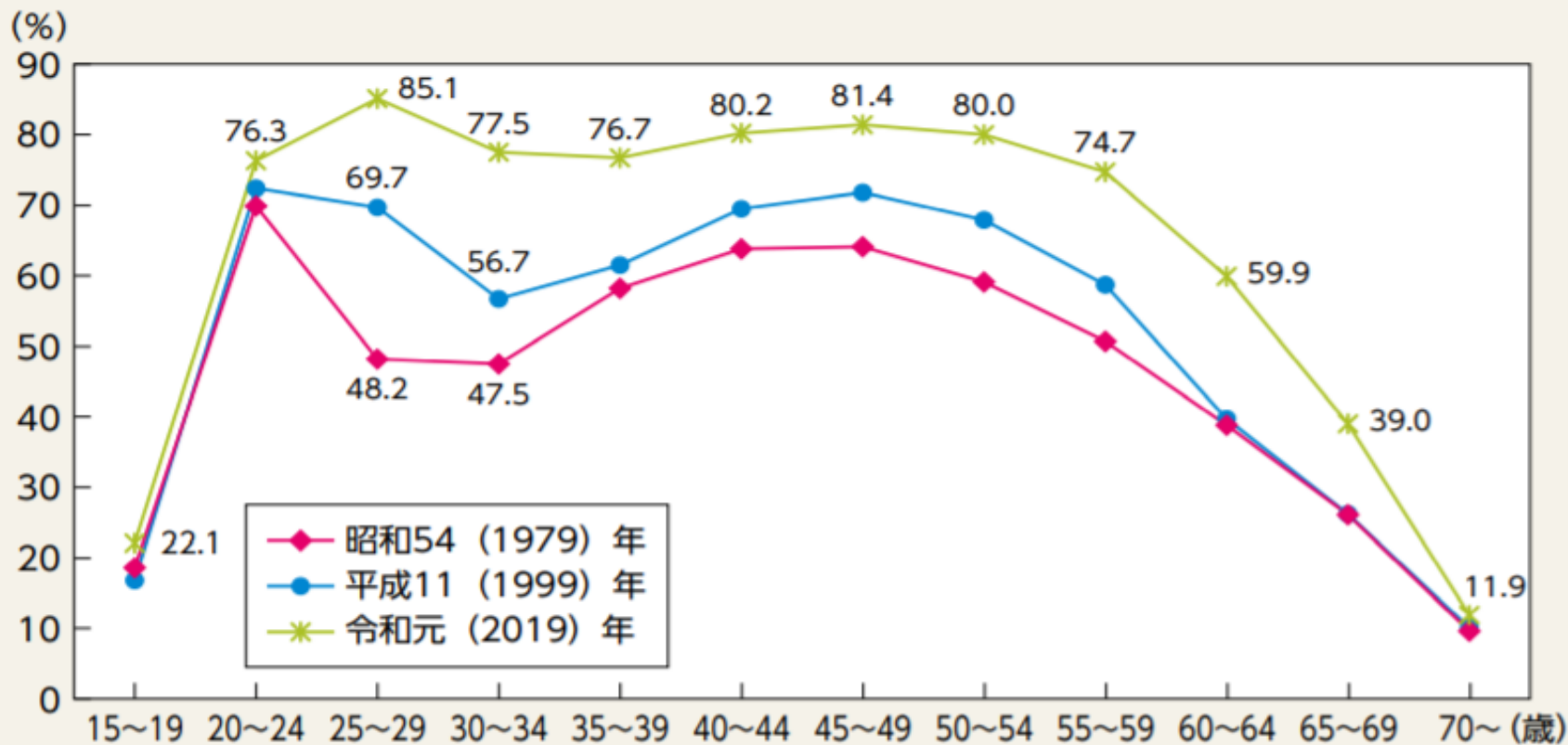


働く期間に定めのない労働契約で働く「正規雇用」とそれ以外の「非正規雇用（契約社員、派遣社員など）」の収入には、差がある。性別による差も。生涯でみるとその差は大！



3-3. 働き方

◆ 女性の年齢階級別労働力率



(備考) 1. 総務省「労働力調査 (基本集計)」より作成。

2. 労働力率は、「労働力人口 (就業者+完全失業者)」 / 「15歳以上人口」 × 100。

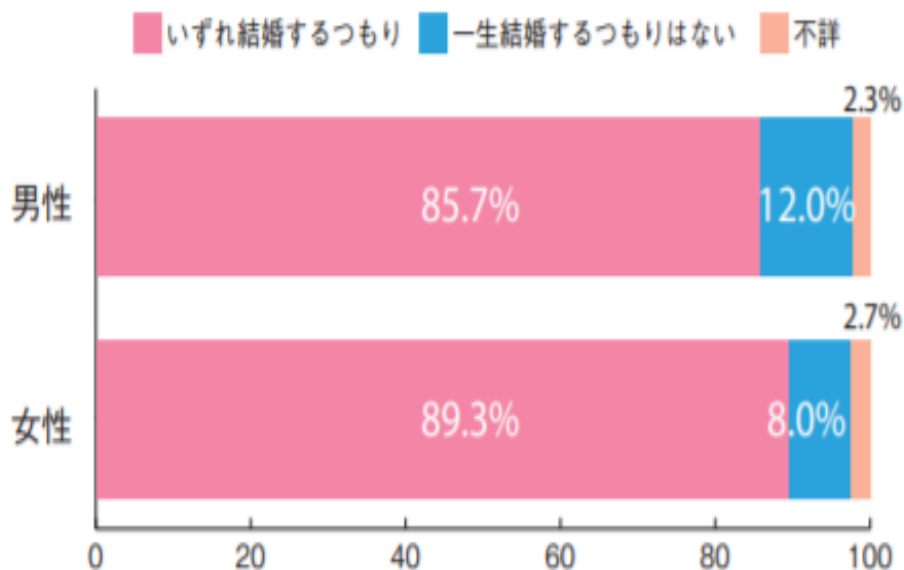
出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」

💡 女性は出産・育児期に労働力率が下がる「M字カーブ」を、男性、諸外国はどの年代でも労働力率は下がらず台形を描く

4-1. 結婚

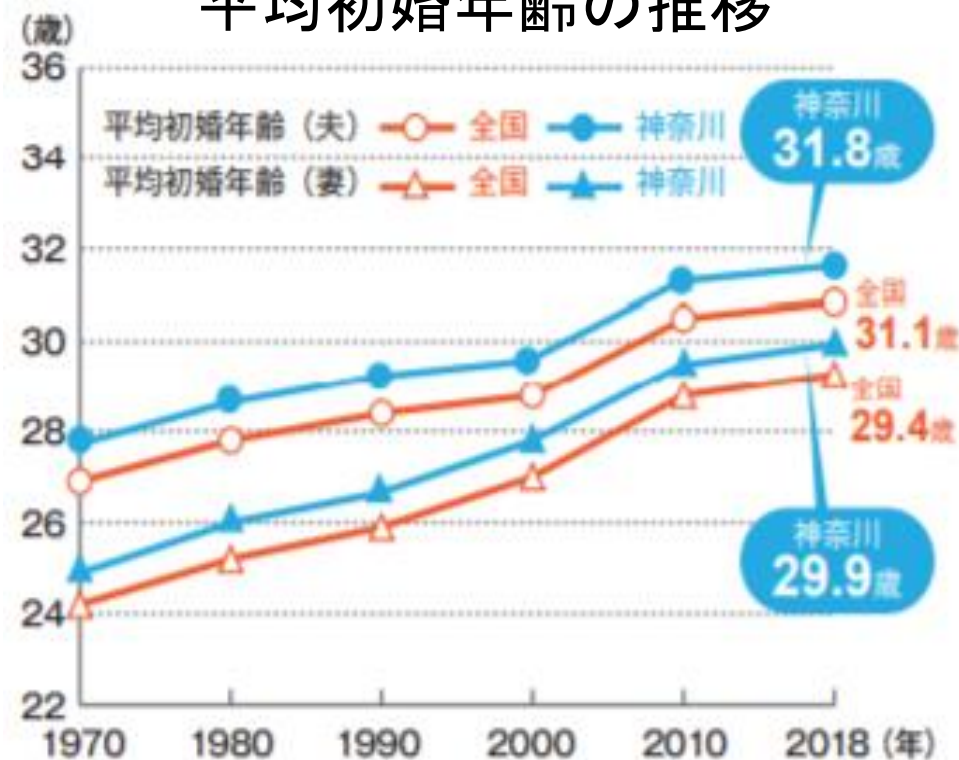
◆ 結婚をめぐる現状

未婚者の結婚への意思



出所：厚生労働省「出生動向本調査(2015年)」
神奈川県「meet me book」2020年

平均初婚年齢の推移



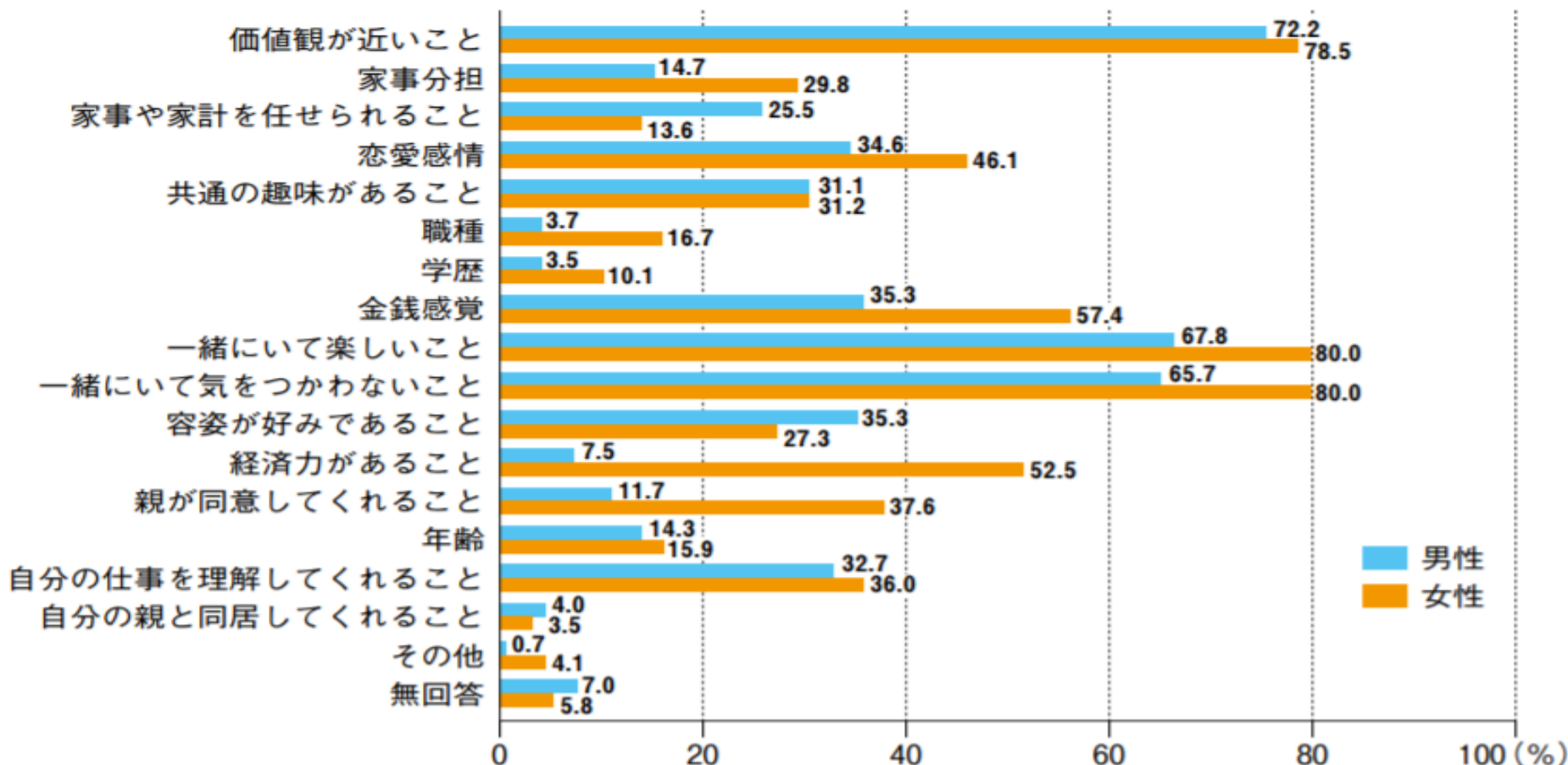
出所：厚生労働省「人口動態調査(2018年)」
神奈川県「meet me book」2020年



男女とも結婚の意思のある人が9割近くに。一方、平均初婚年齢は年々高まり、親の世代と比べ5歳UP、晩婚化が進む

4-2. 結婚

◆ 結婚相手に求める条件 (20~30代)



出所：内閣府「結婚・家族形成に関する意識調査」報告書、2014年



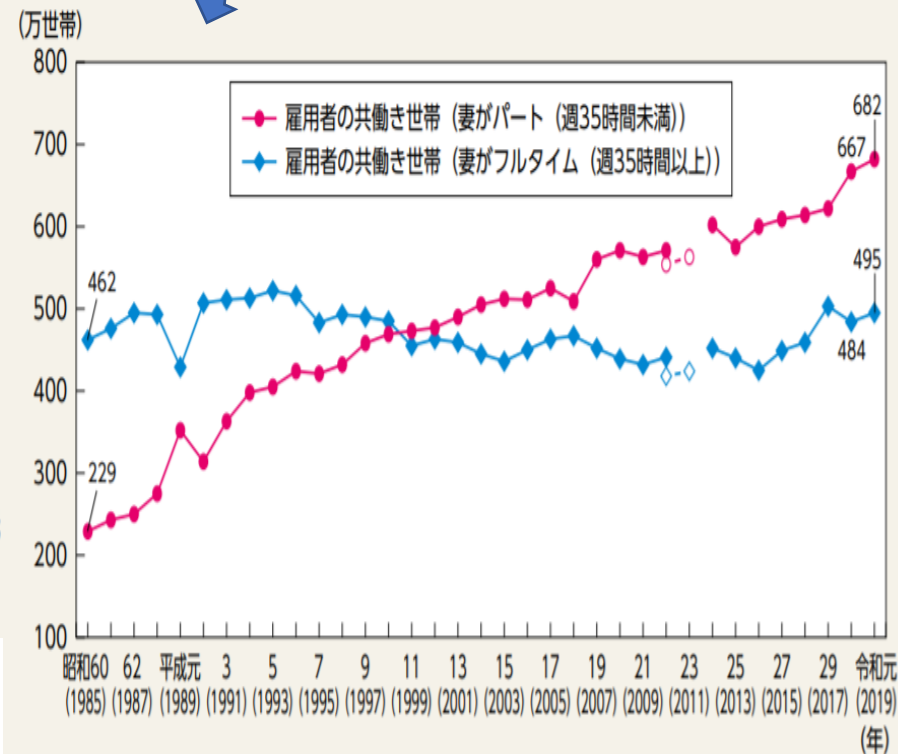
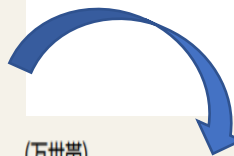
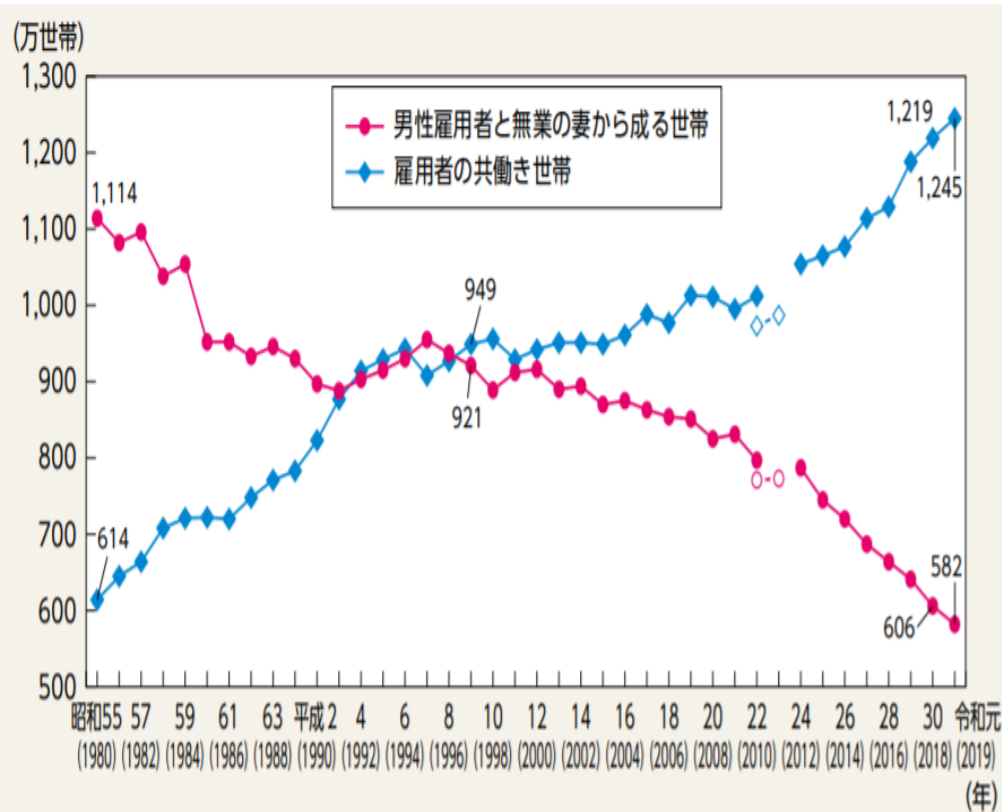
男女とも、「価値観が近い」「一緒にいて楽しい、気をつかわない」と精神的なことの占める割合が高い



FACT

5. 共働きと片働き

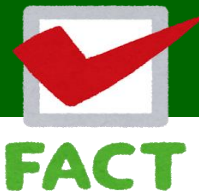
◆ 増え続ける共働き世帯



出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」

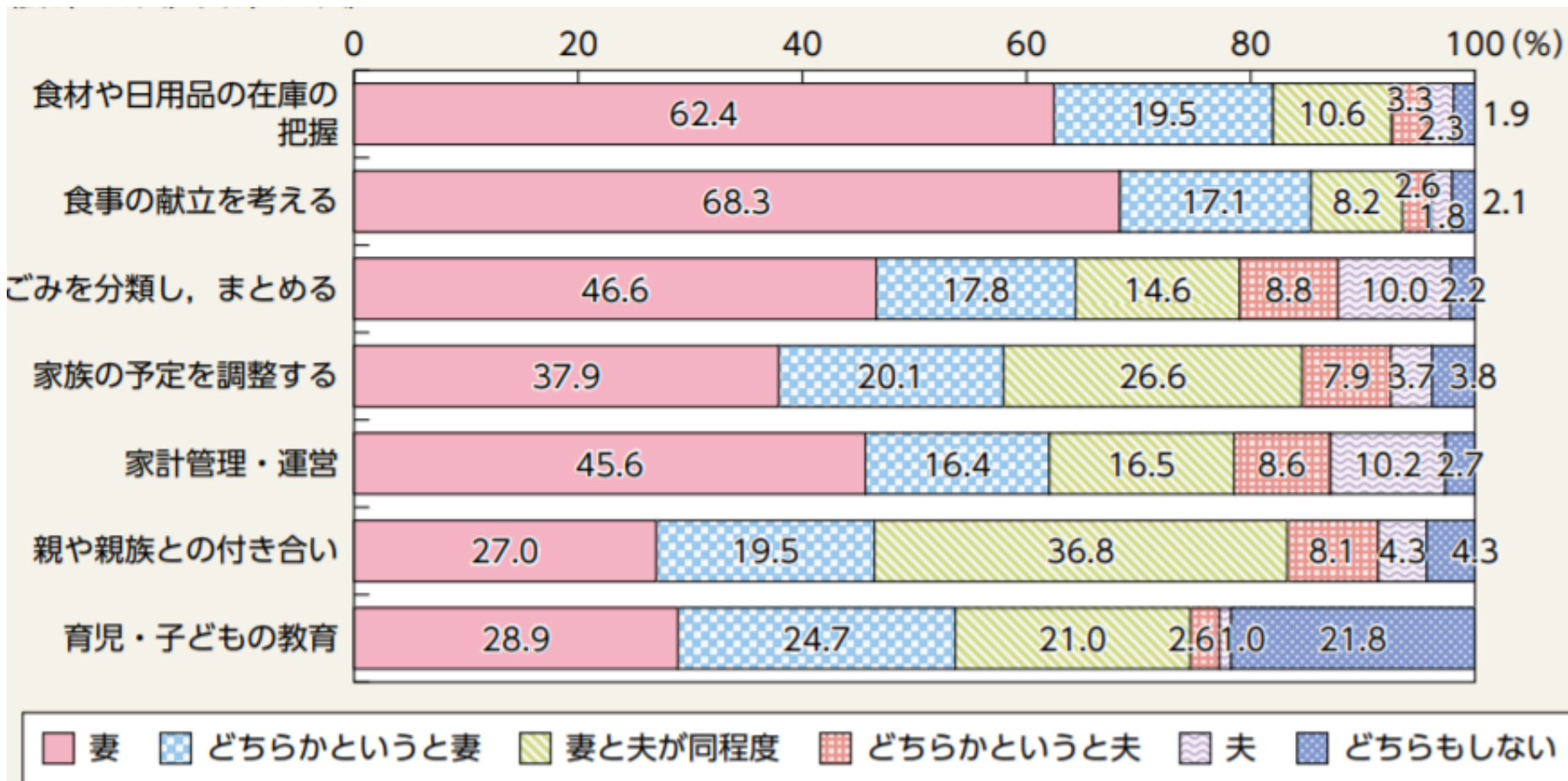


2000年代以降、片働き世帯は減少、共働き世帯が大きく増加
ただし、増えているのは、妻がパートで働く世帯



6. 家事の分担

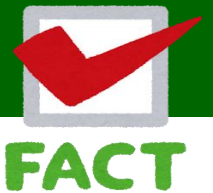
◆ 夫婦の家事分担の状況



出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」

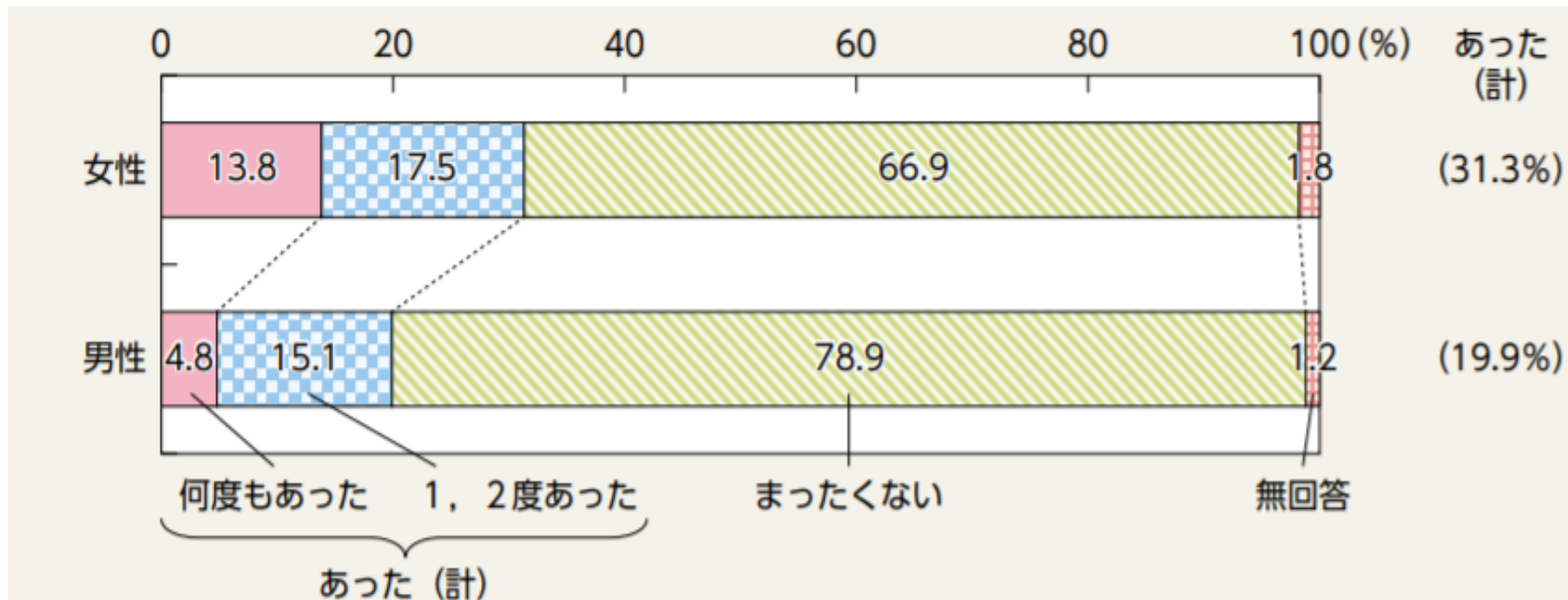


妻が家事の多くを担う傾向に、夫の家事参加は限られている



7. 配偶者等の暴力

◆ 配偶者からの暴力の被害経験



(備考) 1. 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成29年)より作成。

暴力：「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」

出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



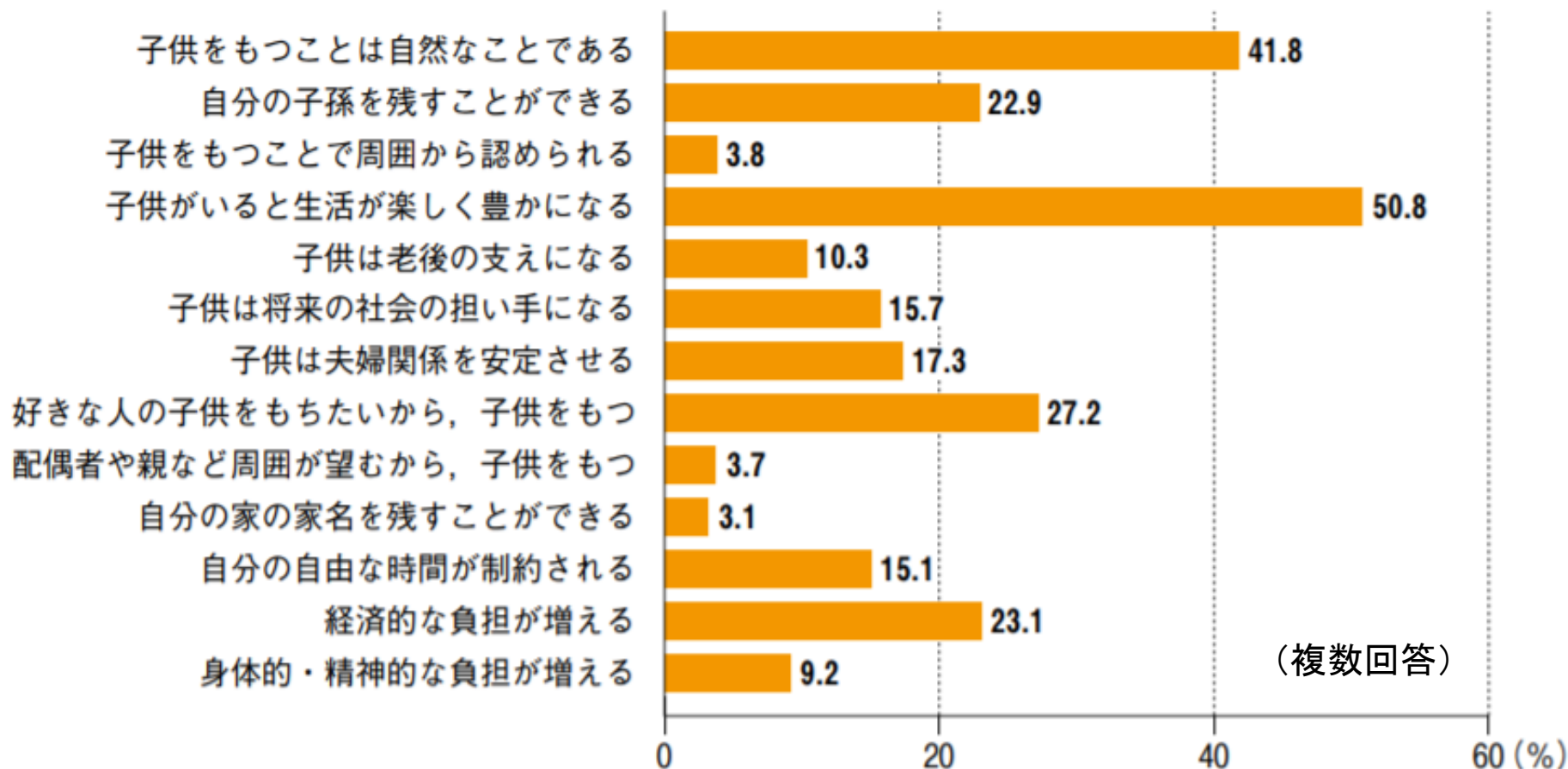
配偶者から1度でも暴力を受けた割合は、女性3割、男性2割に。警察が把握する案件の被害者は女性が多い



FACT

8-1. 出産

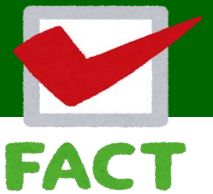
◆ 子どもをもつことへの考え方



出所：厚生労働省「若者の意識に関する調査」2013年

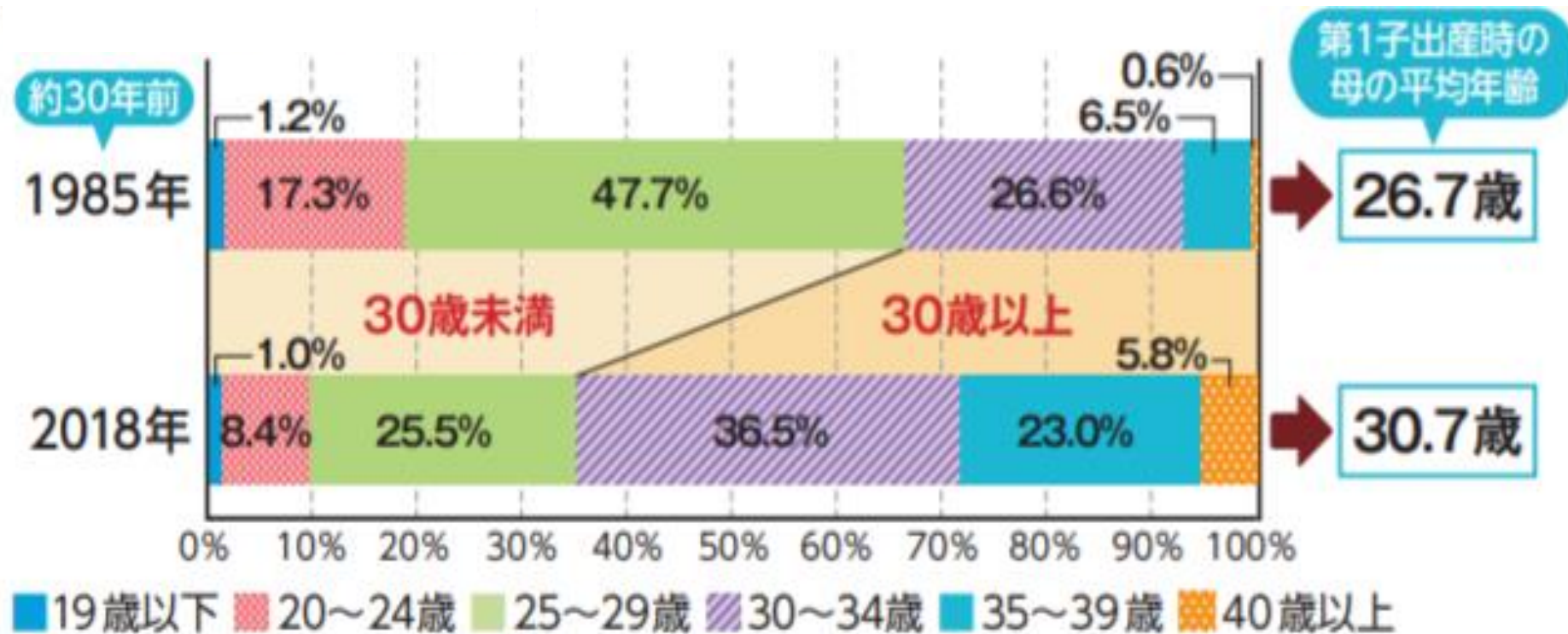


子どもがいると生活が豊かになると思う人は50%超に



8-2. 出産

◆ 女性の出産年齢



出所：厚生労働省「人口動態調査」2018年、神奈川県「mirai book」2020年



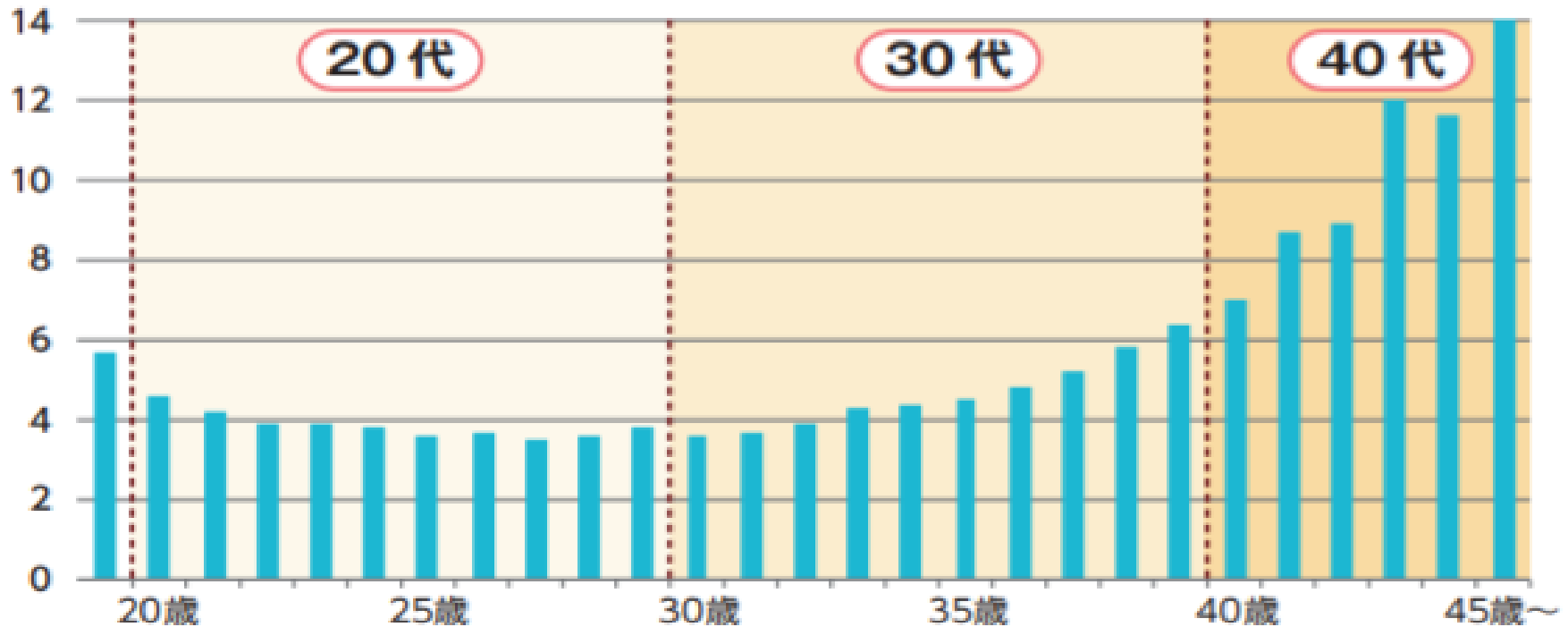
30年間で女性の第1子出産年齢は4歳上昇、30代以降の出産が60%超に。晩婚化により不妊となることも



FACT

8-3. 出産

◆ 母親の年齢別周産期死亡率



周産期死亡率：年間1000の出産で周産期（妊娠22週～生後7日未満）胎児、新生児の死亡率

出所：厚生労働省「人口動態統計の特別集計」、神奈川県「mirai book」2020年



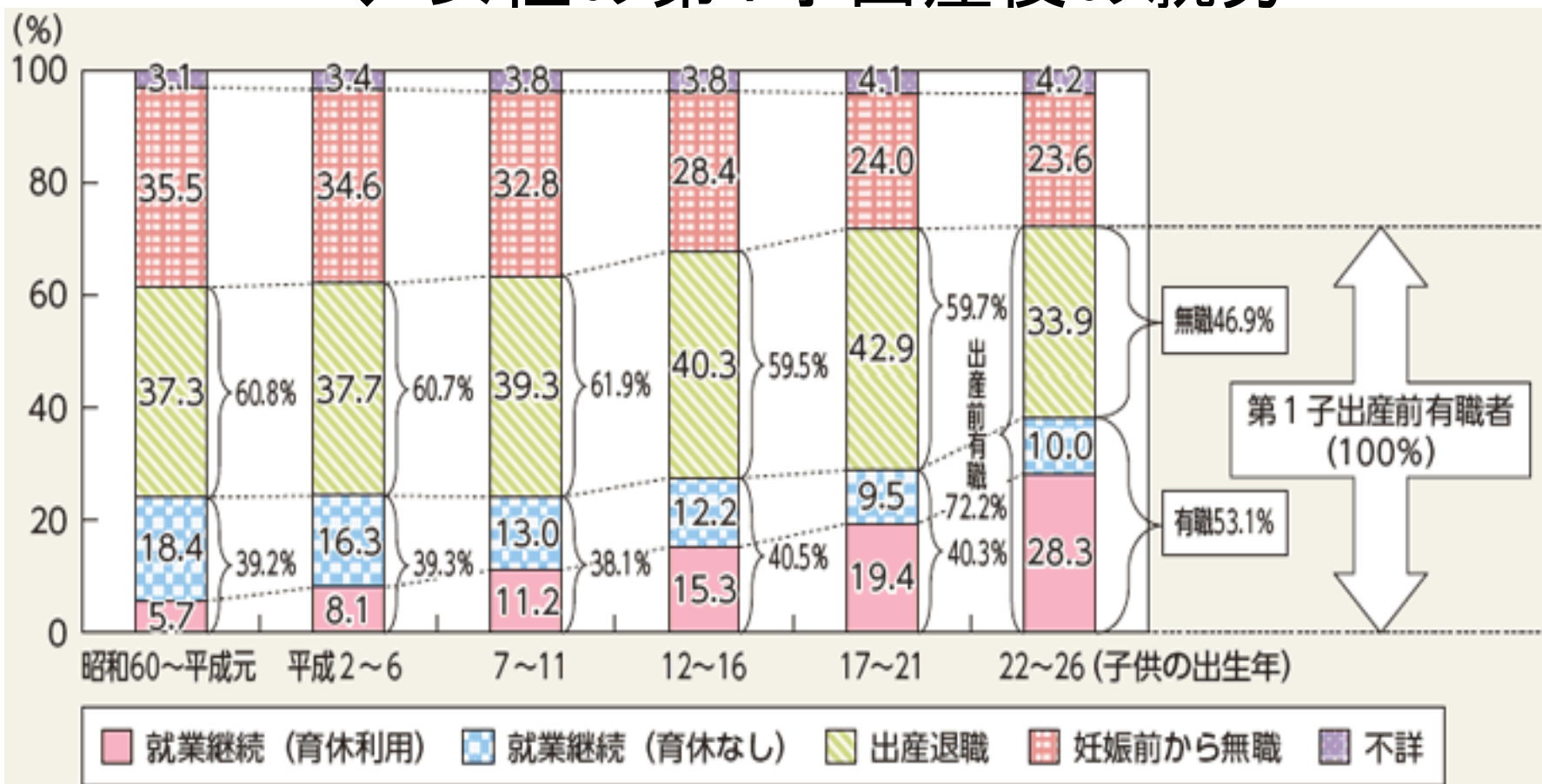
母親の年齢が30代後半以降になると、胎児や新生児の死亡率が上昇。男女とも、加齢により妊娠しにくくなる傾向に。



FACT

9-1. 出産後の就労

◆ 女性の第1子出産後の就労



(備考) 1. 国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査 (夫婦調査)」より作成。

出所 : 内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



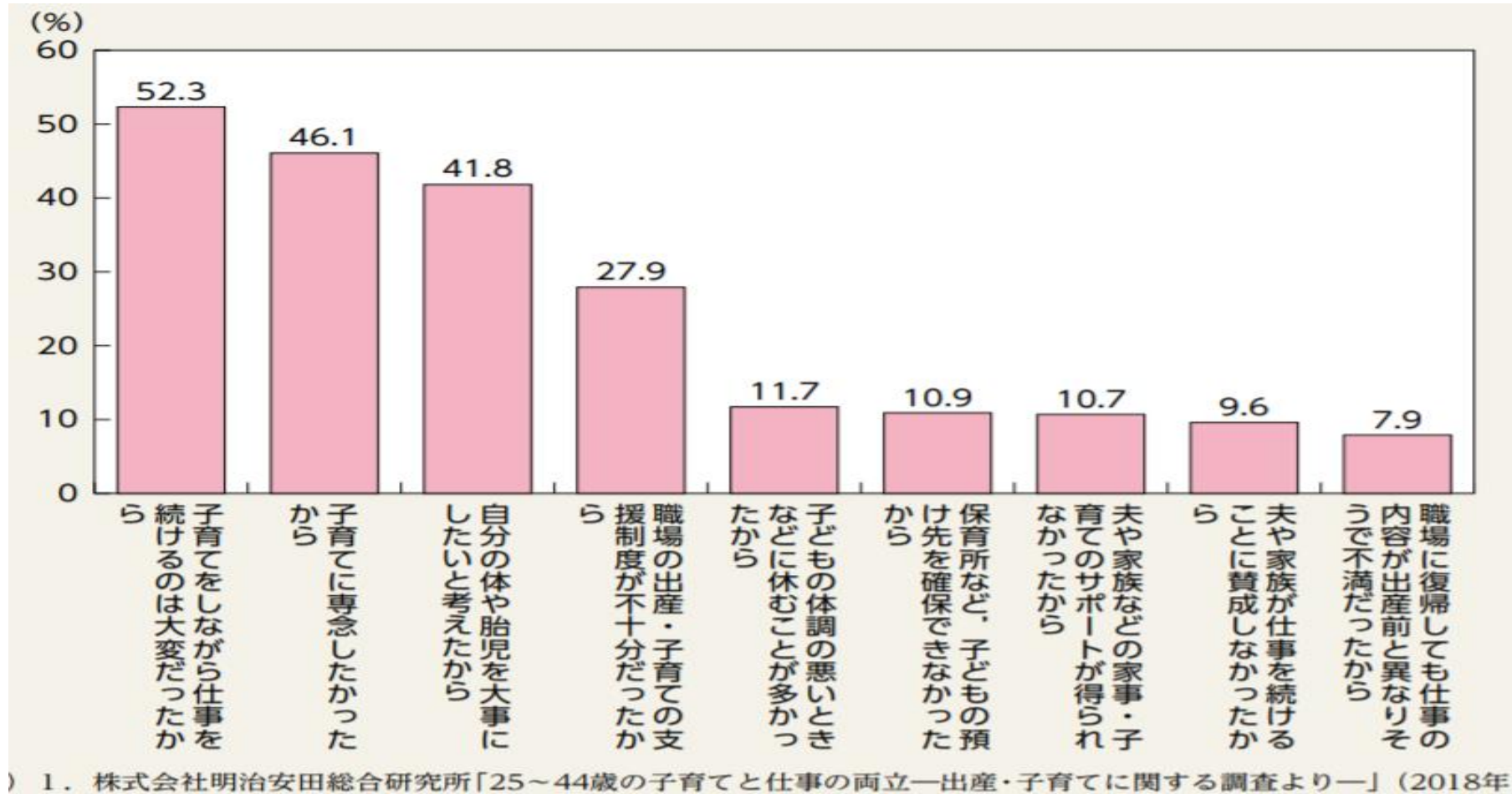
第1子出産後も継続就労する女性は増加傾向に



9-2. 出産後の就労

FACT

◆ 第1子妊娠・出産で仕事を辞めた理由



出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



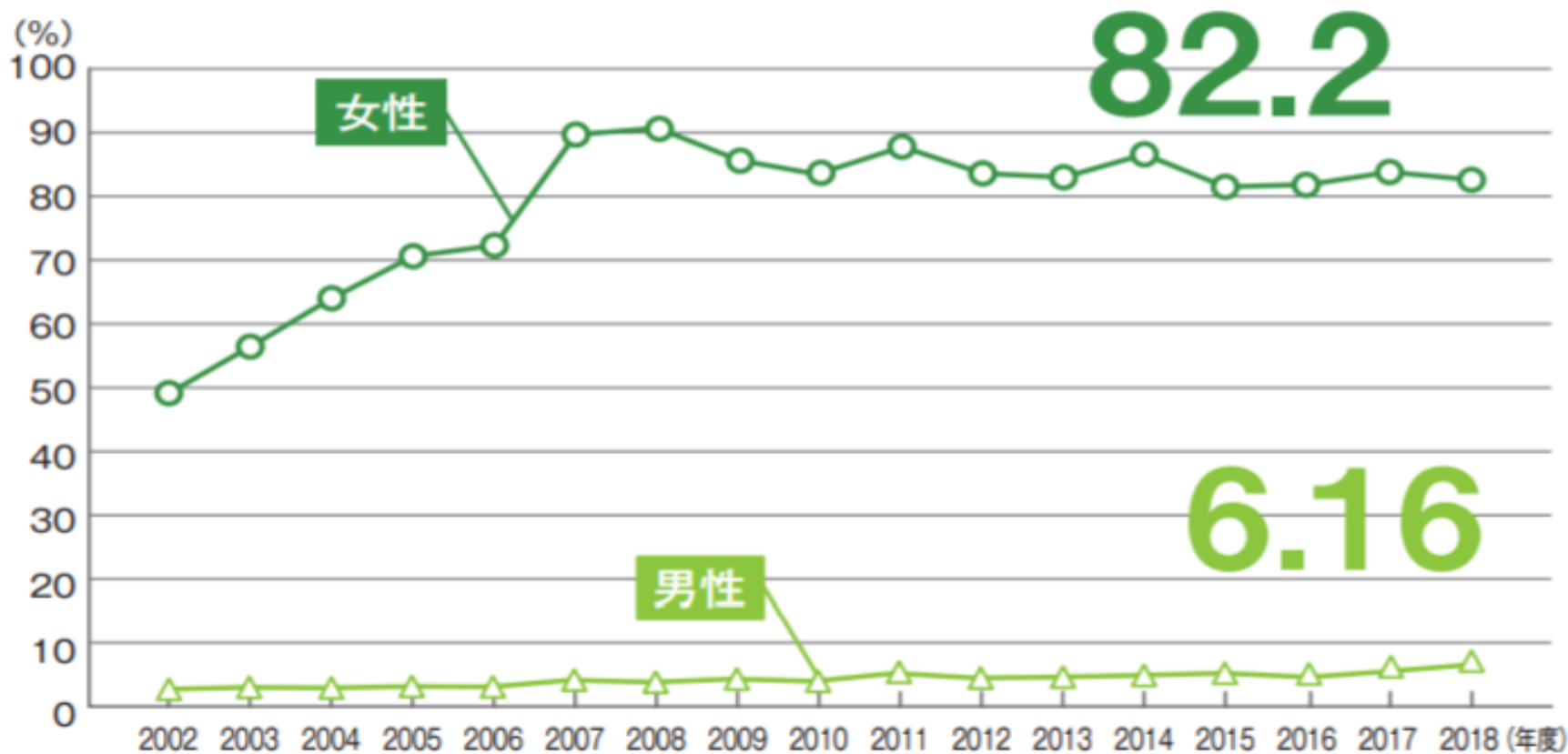
妊娠・出産で退職した理由は様々、両立の大変さが課題に



FACT

10. 育児休業

◆ 育児休業取得率の推移



出所：厚生労働省「雇用均等基本調査」各年度、神奈川県「meet me book」2020年



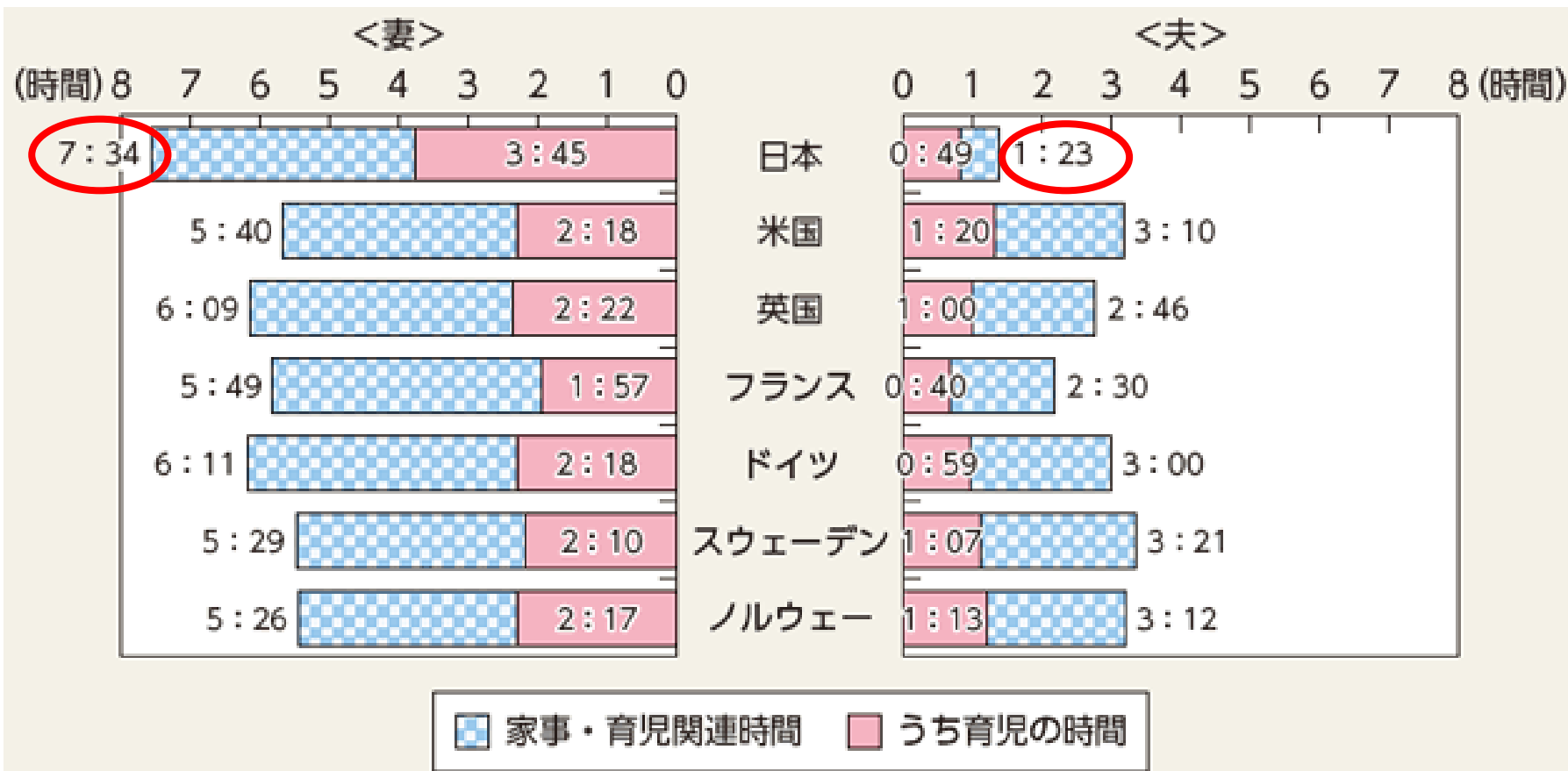
男性の育児休業取得率は公務員を中心に上昇傾向、一方、女性は1年近く取得するのに対して男性は1か月未満に



FACT

11-1. 家事/育児、家計の分担

◆ 夫と妻の家事・育児時間(国際比較)



出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



他の先進国と比べて少ない日本の夫の家事・育児時間。
妻が有業（共働き）でも、夫より担う時間は長い



11-2. 家事/育児、家計の分担

FACT

◆ ワークライフバランスの現状

男性

▶理想

▶現実



女性

▶理想

▶現実



■ 仕事を優先
 ■ 家庭生活を優先
 ■ 地域・個人の生活を優先
 ■ 仕事と家庭生活を優先
 ■ 仕事と地域・個人の生活を優先
 ■ 家庭生活と地域・個人の生活を優先
 ■ 仕事と家庭生活と地域・個人の生活を優先
 ■ わからない

出所：内閣府「男女共同参画に関する世論調査」2019年、神奈川県「meet me book」2020年



現実には、男性は仕事を、女性は家庭を優先する傾向に

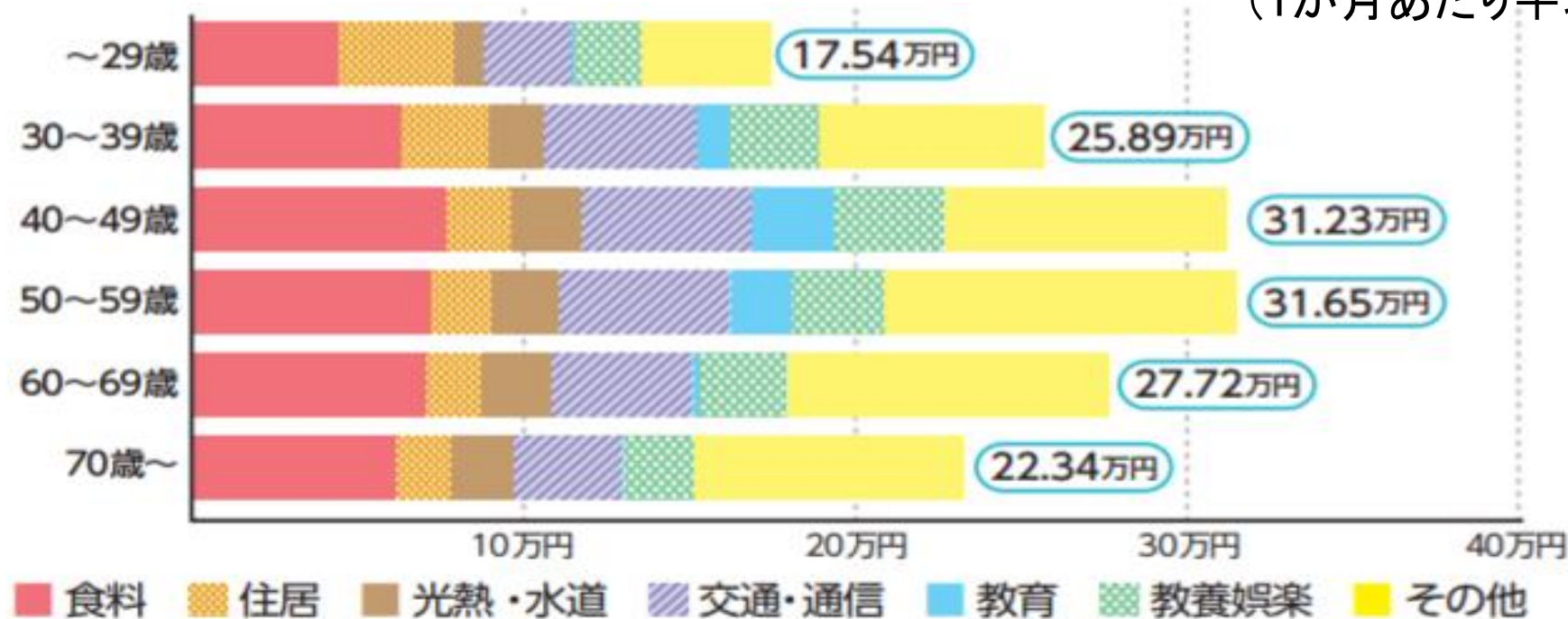


FACT

11-3. 家事/育児、家計の分担

◆世帯主の年代別消費支出（勤労者世帯）

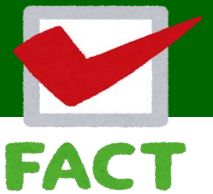
（1か月あたり平均）



出所：総務省「家計調査」2019年、神奈川県「mirai book」2020年

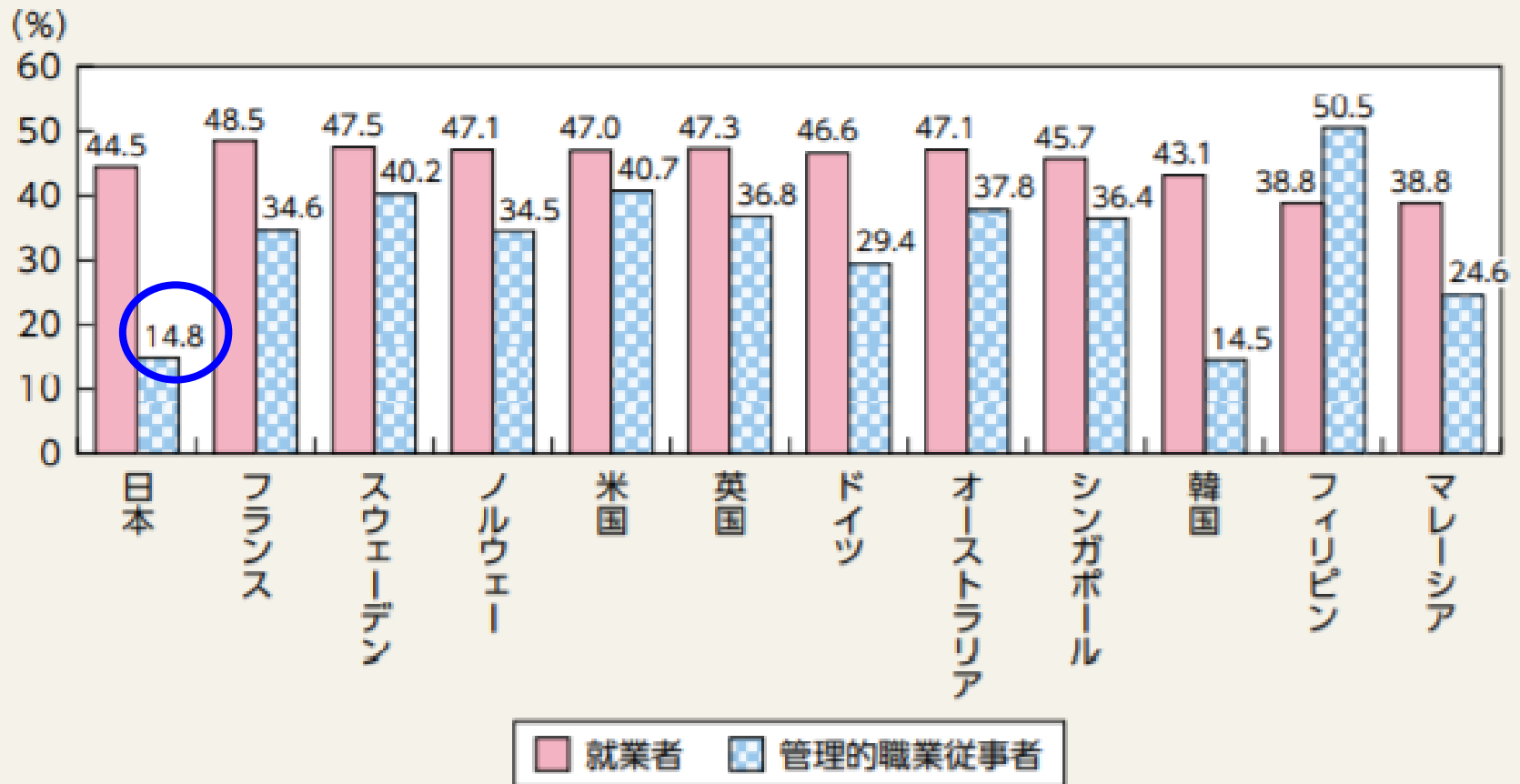


どの年代も食費が多い。20～30代は住居費、40～50代は教育費も多くなるなど、ライフステージの影響も



12-1. 男女差

◆管理職に占める女性比率(国際比較)



(備考) 1. 総務省「労働力調査(基本集計)」(令和元年), その他の国はILO「ILOSTAT」より作成。

出所: 内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



日本の女性管理職の割合は諸外国と比べて低い

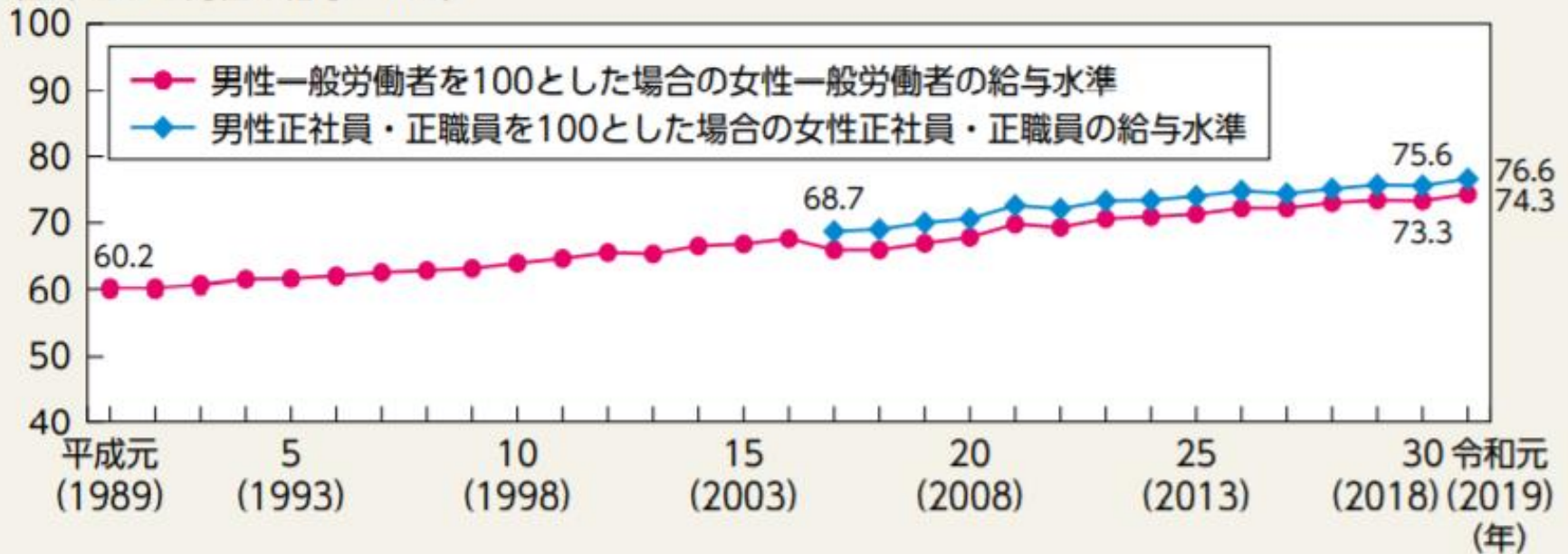


FACT

12-2. 男女差

◆男女の所定内給与の格差

(基準とする男性の給与=100)

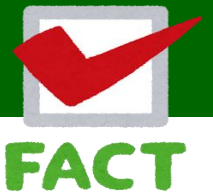


- (備考) 1. 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成。
2. 10人以上の常用労働者を雇用する民営事業所における値。
3. 給与水準は各年6月分の所定内給与額から算出。
4. 一般労働者とは、常用労働者のうち短時間労働者以外の者。

出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



男女間の賃金格差は縮小傾向にあるものの、女性の給与は男性に比べて低い。主な要因は管理職の少なさに。



12-3. 男女差

◆日本の男女格差(国際ランキング)

GGI(Gender Gap Index) ジェンダー・ギャップ指数
121位／153か国 (2019年) (2018年:110位/149か国)

世界経済フォーラム(WEF)が2019年に発表。女性の地位を「経済(労働力率、管理職に占める比率、専門職に占める比率等)」「教育(識字率、初等・中等・高等教育の各在学率)」「政治(国会議員に占める比率、閣僚の比率等)」「保健(新生児の男女比率、健康寿命)」の4分野から算出。

1位(アイスランド)、2位(ノルウェー)、3位(フィンランド)など北欧の国々のほか、5位(ニカラグア)、9位(ルワンダ)なども上位に



諸外国に比べて日本が遅れているのは政治と経済の分野



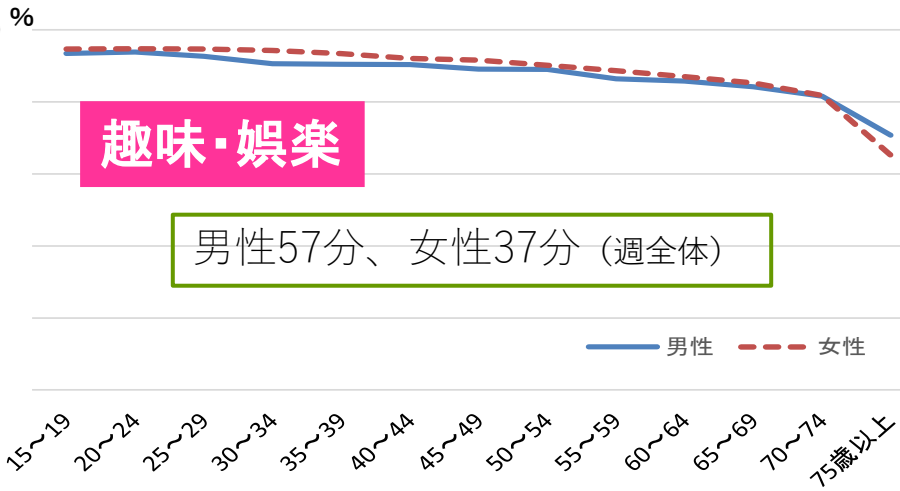
FACT

13. 趣味・ボランティア

◆年齢別行動者の割合

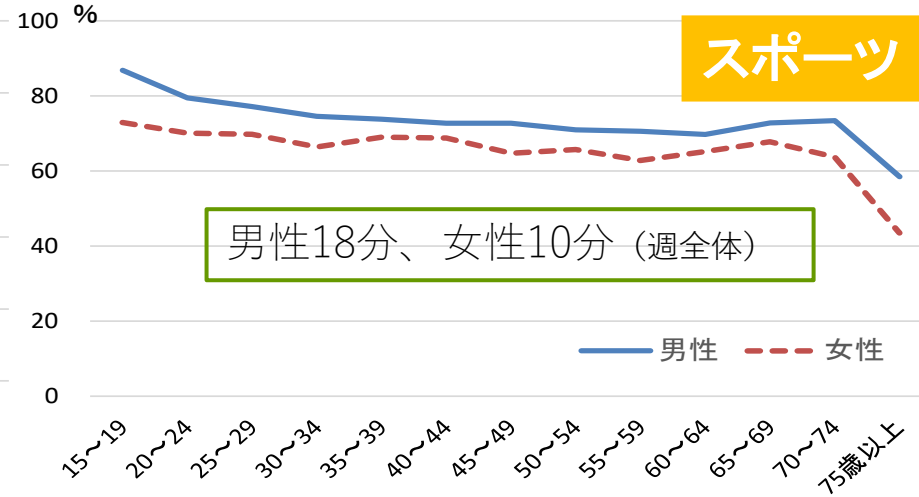
趣味・娯楽

男性57分、女性37分（週全体）



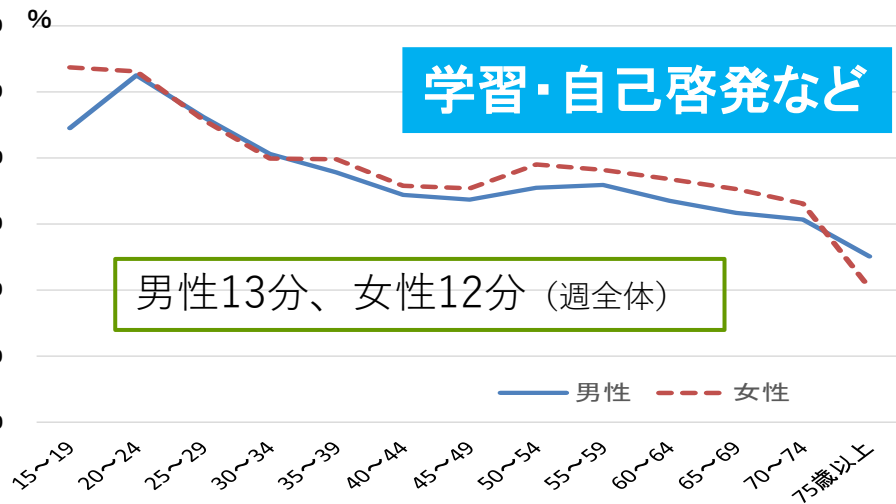
スポーツ

男性18分、女性10分（週全体）



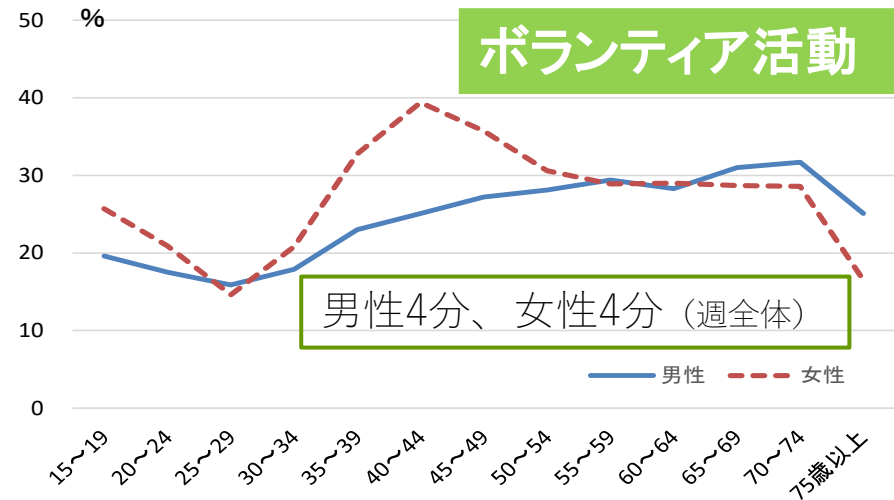
学習・自己啓発など

男性13分、女性12分（週全体）



ボランティア活動

男性4分、女性4分（週全体）



出所：総務省『平成28年社会生活基本調査』より作成



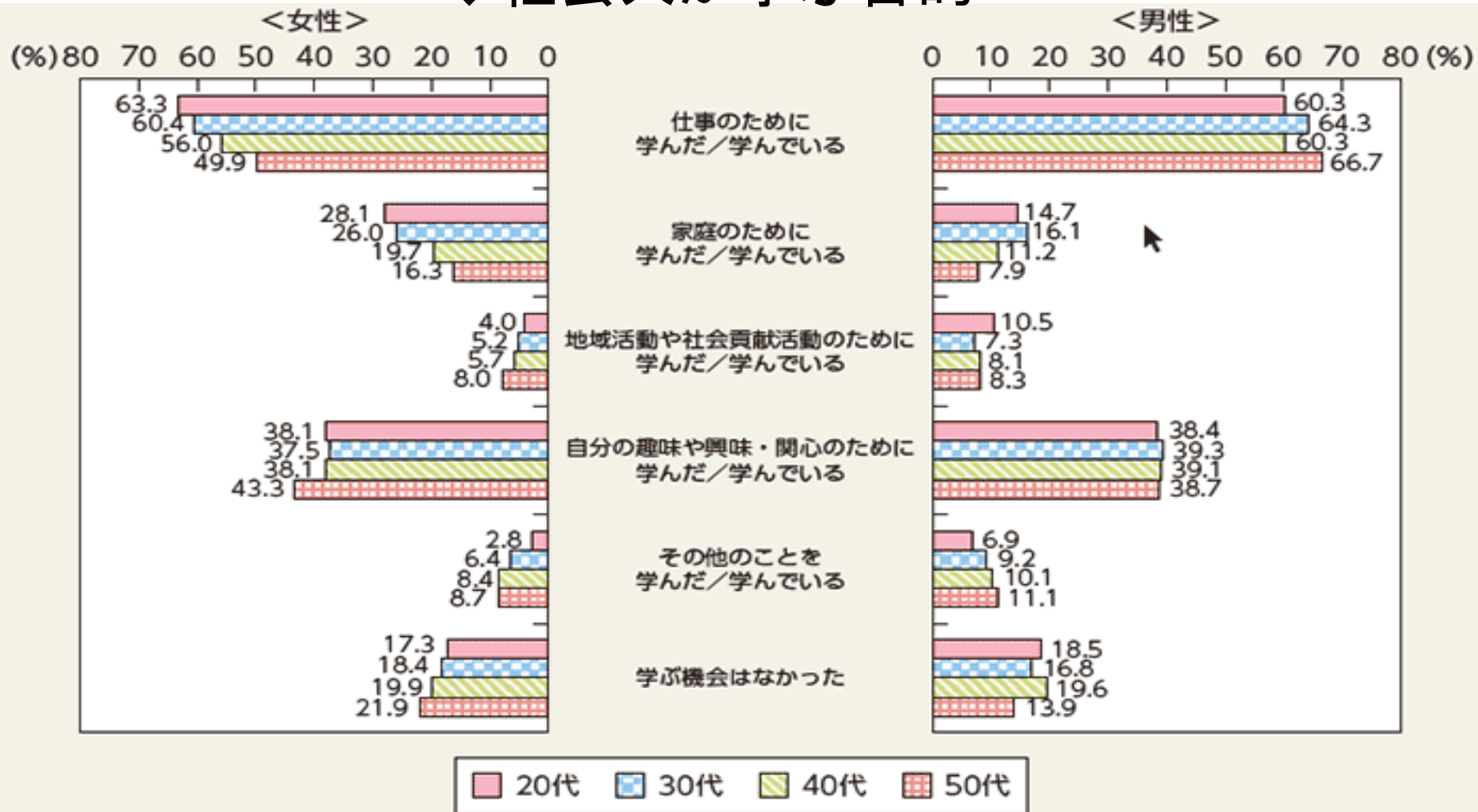
内容により男女差、ライフコースの影響があり



14-1. スキルアップ

FACT

◆社会人が学ぶ目的



出所：内閣府「男女共同参画白書 令和元年版」



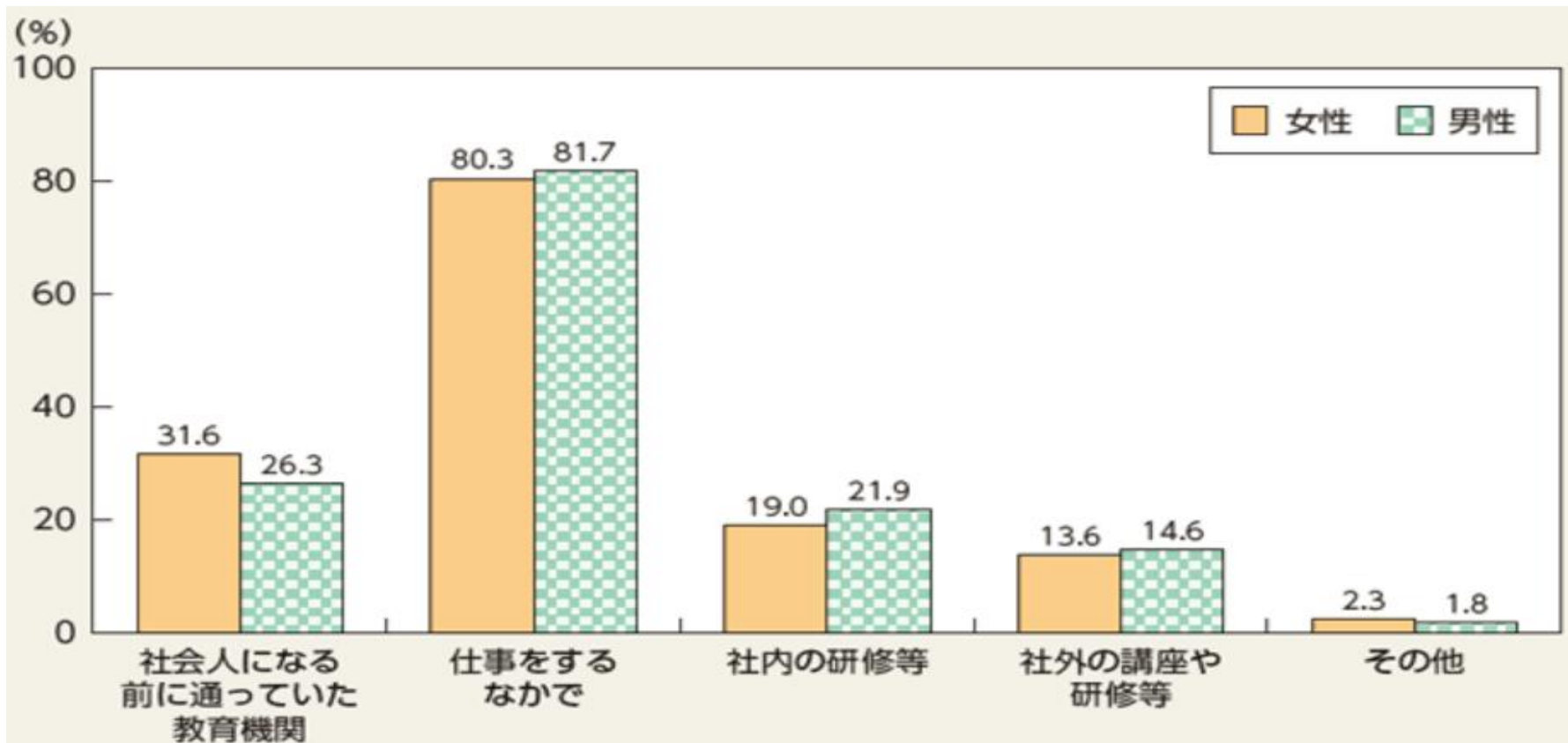
男女とも仕事のために学ぶ割合が高い、性別・年代で違いあり



FACT

14-2. スキルアップ

◆仕事に必要な知識・技能の獲得方法

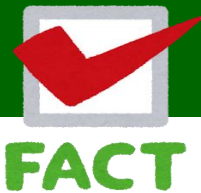


1. 「多様な選択を可能にする学びに関する調査」(平成30年度内閣府委託調査・株式会社創建)より作成。

出所：内閣府「男女共同参画白書 令和元年版」

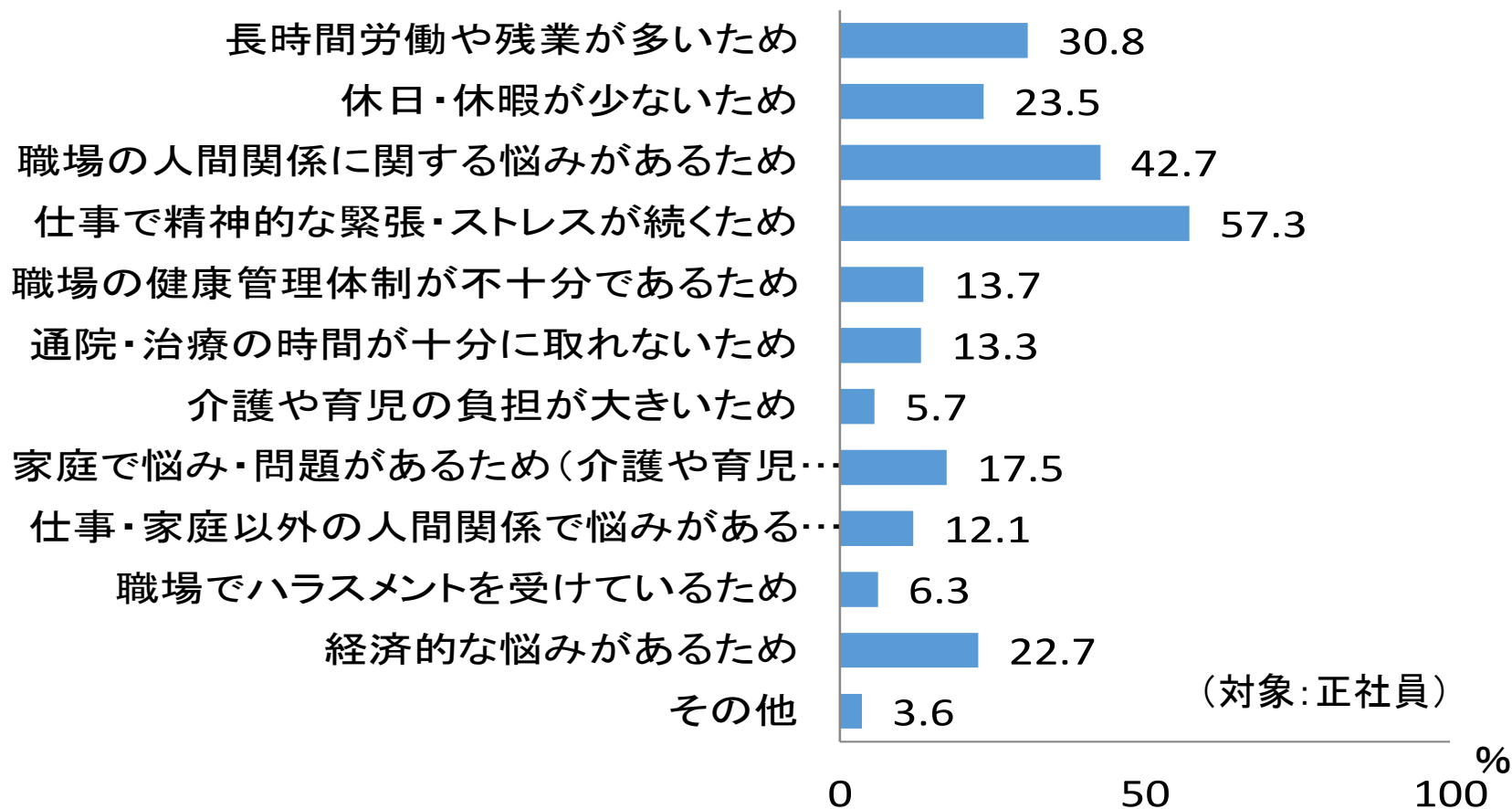


男女とも「仕事をするなかで」スキルを獲得する傾向に



15. 心と体の健康

◆疾患発症・悪化の不安を感じた理由



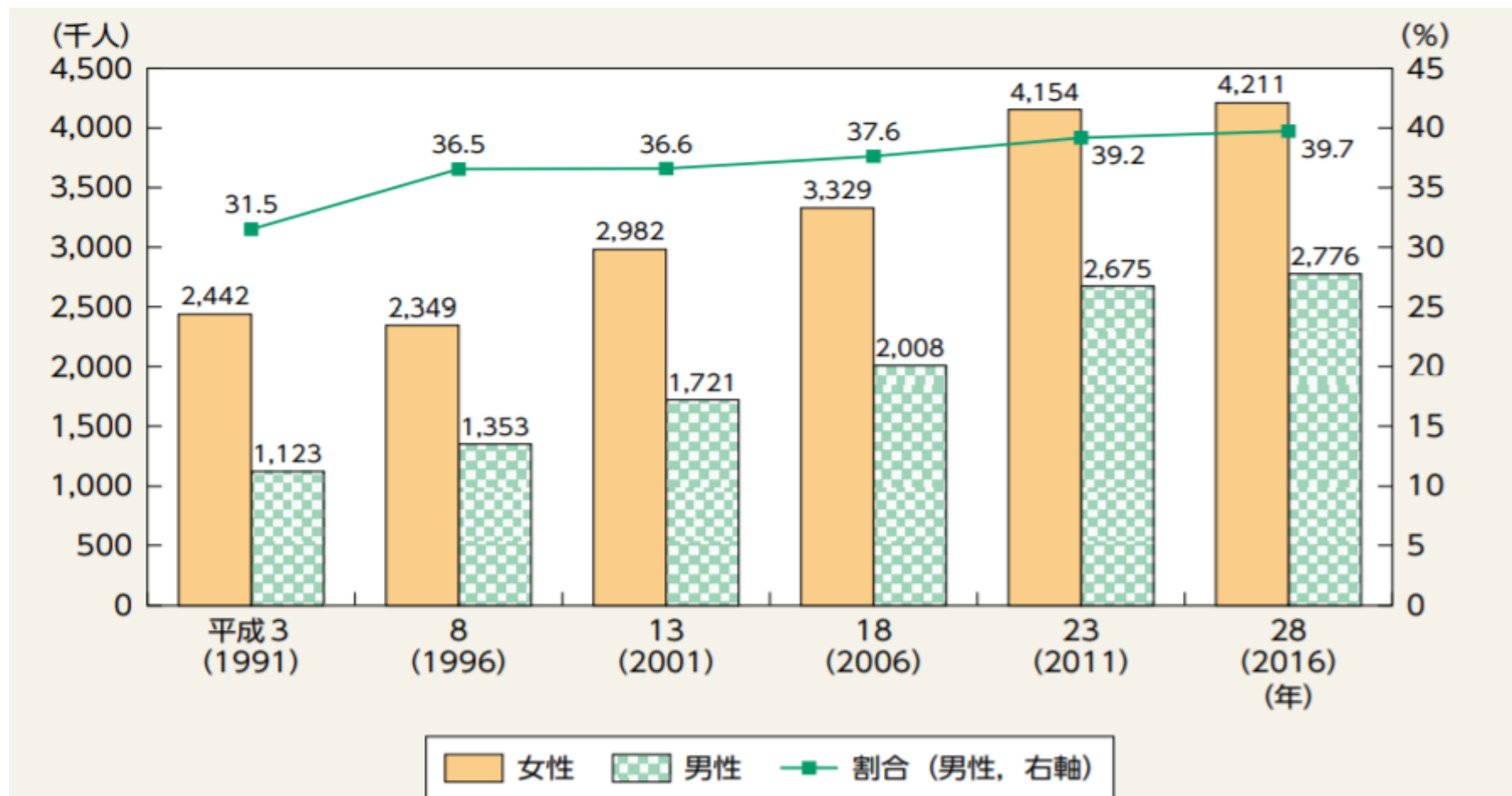
出所: 厚生労働省「平成27年度過労死等に関する実態把握のための社会面の調査研究事業」



身体の不調は仕事の緊張・ストレス、人間関係の割合が高い

16. 介護

◆家族の介護を行う人の推移



(備考) 1. 総務省「社会生活基本調査」より作成。

出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



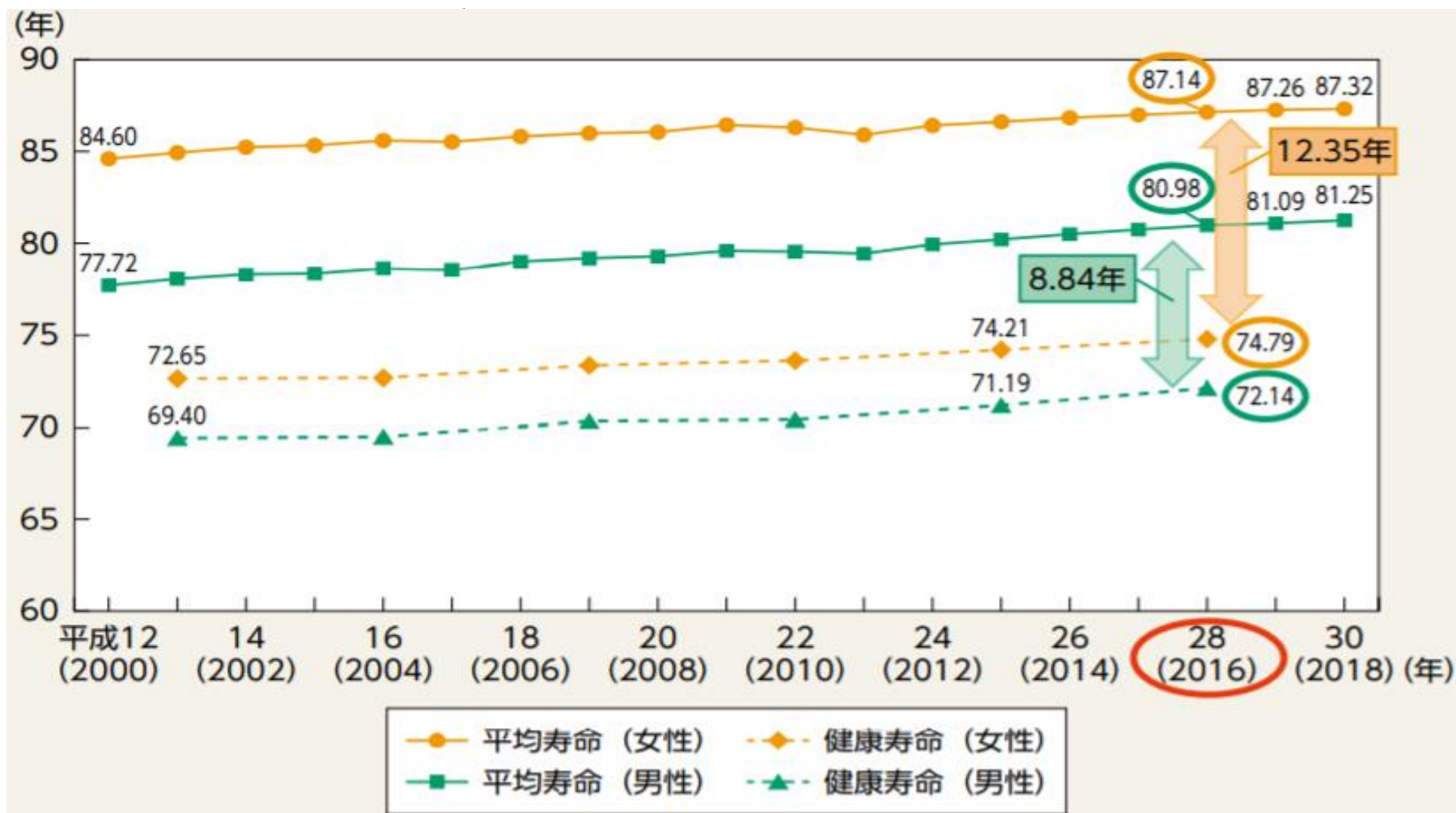
家族の介護を担う人は男女ともに大きく増加



17. 老後の不安：健康

FACT

◆平均寿命と健康寿命の推移



出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



平均寿命は男女とも過去最高、今後は健康寿命が鍵に！